地質学雑誌　第115巻　第11号（通巻1370号）付録 [redacted] 平成21年11月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.12 No.11 November 2009

On Line Publishing & Data Base Service

TERRAPUB

Open Access Periodical Journals

大阪微化石研究会誌　機関誌・特集号

News of Osaka Micropaleontologists, regular and special volumes

放散虫，　渦鞭毛藻, 石灰質ナンノ化石等の特集とモノグラフ

including special issues and monographs on radiolarians, dinoflagellates and nannofossils

http://www.terrapub.co.jp/onlineproceedings/nom/index.html

英文学会誌，英文単行本，英文 Proceedings,
英文 COE 結果報告書の出版
および 英文校閲の仕事をお引き受けします.

- 国際的に通用する英文学会誌, 英文単行本を出版いたします.
- WEB上で公開するためのdata作成, プログラミングをいたします.
- 外国の一流出版社で活躍している英国人専門家による英文校閲をいたします.
- 英文単行本 (自費出版) 製作のお手伝いをいたします.
- 所定期間経過後, 当社の単行本はすべてfreeで公開します.

TERRAPUB e-Library (**Free**)

http://www.terrapub.co.jp/e-library/index.html

- **Sedimentary Facies in the Active Plate Margin**, Edited by A. Taira and F. Masuda, 1989
- **Centenary of Japanese Micropaleontology**, Edited by Kunihiro Ishizaki and Tsunemasa Saito, 1992

- Geodynamics of Atotsugawa Fault System, Edited by M. Ando
  2007, A4, 2段組, 186+xii pp., Hard cover, 15,000 円　(ISBN 978-4-88704-139-4)
- An Introduction to Tectonophysics: Theoretical Aspects of Structural Geology, Atsushi Yamaji
  2007, B5, 400+viii pp., Hard cover, 12,000 円　(ISBN 4-88704-135-7)

TERRAPUB　〒158-0083　東京都世田谷区奥沢5-27-19-2003
Tel: +81-3-3718-7500　Fax: +81-3-3718-4406　URL http://www.terrapub.co.jp

日本地質学会News

Vol.12 No.11 November 2009

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

2010年度一般社団法人日本地質学会代議員選挙の立候補者名簿ならびに投票について ……2

案内 ……4
第55回日本水環境学会セミナー「水辺の再生」/平成21年度国土技術政策総合研究所講演会/第46回の霞ヶ関環境講座/第37回三宅賞受賞者の受賞記念講演

各賞・助成 ……4
日台科学技術交流の各種事業応募者募集/第51回藤原賞受賞候補者募集

紹介 ……5
地球（岩石圏）の歴史（上巻）『星野学説』に学ぶ―地球の微膨張説―　佐藤久夫　編著（足立勝治）

IGCPニュース2008－2009（波田重熙） ……6

116年年会記事（岡山大会） ……7
E班　参加者の感想

学協会・研究会報告 ……8
第８回国際エクロジャイト会議参加報告（平島崇男・Dirk Spengler）

国際交流 ……10
モンゴルへの交流協定締結出張の報告（石渡　明）

TOPIC ……12
山手線と山の手台地（川村喜一郎）

支部コーナー ……13
北海道支部　大成功　北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質魅力発見！」

2010年度会費払込について ……13

院生コーナー ……14
J-DESCコアスクール・第３回微化石コース/第６回微化石サマースクール参加報告（小安浩理）

追悼 ……15
名誉会員　羽鳥謙三先生を偲ぶ（石渡　明）

学会記事（任意団体） ……16
（一社）日本地質学会2009年度第４回執行理事会議事録　兼　（任）日本地質学会2009年度第４回理事会議事録/（任）日本地質学会2009年度第５回理事会議事録/（任）日本地質学会2009年度第１回定例評議員会議事録

一般社団法人日本地質学会 ……20
（一社）日本地質学会2009年度第５回執行理事会議事録/（一社）日本地質学会2009年度第１回理事会議事録

CALENDAR ……21

出版物在庫案内 ……22

巻末　会費口座振替依頼書

表紙紹介

立山・室堂山展望台から南方を眺めた立山カルデラ（一部）の荒々しい壁面

写真・文：**高木秀雄**（早稲田大学 教育・総合科学学術院）

右側奥は薬師岳．立山カルデラは巨大な侵食カルデラで，弥陀ヶ原と五色ヶ原（写真：カルデラ外側のなだらかな面）を分割した．1858年４月に発生した飛越地震によって，鳶山崩れ（写真：カルデラ縁にそびえる鷲岳の奥）が発生．その時できたせき止め湖も崩壊，常願寺川に沿って土石流が氾濫し，富山平野に大きな災害をもたらした．10年の歳月をかけて1939年に完成した白岩堰堤は国の重要文化財にも指定されており，立山カルデラの砂防工事は世界的にも有名．立山カルデラは2007年に地質百選に選ばれた．詳細は立山駅前の立山カルデラ砂防博物館で見学できる．

お知らせ

■2010年度各賞候補者募集

応募締切：2009年12月25日（金）必着

詳しくは，ニュース誌９月号または学会HPをご覧下さい．

■2010年度会費口座引き落とし

振替予定日：12月24日（木）

詳しくは本誌p.13参照．

事務局営業カレンダー

■ お休み　＊印は振替休日です

11月/November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
1	2*	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

12月/December

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

年末年始休業：12/29-1/5

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

2010年度一般社団法人日本地質学会代議員選挙の立候補者名簿ならびに投票について

投票締切　2010年１月９日（土）必着

定款，選挙規則および選挙細則に基づき，法人として初めての代議員選挙を実施いたします．

11月12日に立候補が締め切られ，選挙管理委員会で確認した立候補者の名簿は下記のとおりです．

全国区については定数未満ですので，全員が無投票当選となり投票は行いません．地方支部区においては，立候補者が定数を超えた支部区はありませんので，全員が当選となりますが，支部枠理事の選出がありますので，投票を行います．

また，この選挙と同時に，会長・副会長への立候補意思表明者に対する会員の意向調査を実施いたします．以下に投票の要点を記しますが，詳細は投票用紙とともに参考書類を別途お送りしますのでご覧ください．投票はお早めに，多くの会員が投票していただきますようご協力をお願いします．

記

１．投票期間：11月30日（月）～１月９日（土）

投票および意向調査はこの期間内に，所定の用紙，封筒により郵便として投函してください．郵送以外の方法は受け付けません．

２．選挙権：正会員（院生，学部学生含む）

３．代議員地方支部区のみ投票を行います．
　地方支部区代議員の選出には，当該支部区所属（登録住所）の会員のみが投票できます．

４．代議員任期：全国区・支部区の全員が２年，今後は２年ごとに全員が改選となります．

５．選挙活動期間：11月27日（金）～12月21日（月）
　定められた期間内に限り選挙活動を行うことができます．

６．開票日：１月16日（土）午前９時から　地質学会事務局
　開票の立会いを希望する会員は，１月８日（金）までに会員氏名を明記して，郵送またはe-mailで選挙管理委員会あてにお申しこみください．多人数になった場合には，制限する場合もあります．

７．立候補者数がそれぞれの定数を満たしていない場合でも，すべてに投票をしてください．

2009年11月13日
一般社団法人日本地質学会　選挙管理委員会

代議員候補者名簿（受付順）

全国区（定数100名）

注１）全国区は無投票当選につき投票は必要ありません．

注２）＊印，＊＊印は，それぞれ会長，副会長立候補意思表明者（別途郵送されるマニフェストをご参照下さい）

立候補者名	所属機関名
１．高木　秀雄	早稲田大学
２．矢島　道子	NPO地質情報整備・活用機構
３．芝川　明義	大阪府立花園高等学校
４．星　博幸	愛知教育大学
５．小嶋　智	岐阜大学
６．福冨　幹男	地技研
７．清川　昌一	九州大学
８．佐々木　和彦	応用地質（株）
９．原山　智	信州大学
10．井龍　康文	名古屋大学
11．中井　均	都留文科大学
12．藤林　紀枝	新潟大学
13．山口　耕生	東邦大学
14．山田　泰広	京都大学
15．斎藤　眞	産業技術総合研究所
16．七山　太	産業技術総合研究所
17．西　弘嗣	北海道大学
18．林　愛明	静岡大学
19．脇田　浩二	産業技術総合研究所
20．天野　一男	茨城大学
21．石渡　明	東北大学東北アジア研究センター
22．上砂　正一	環境地質コンサルタント
23．小山内　康人	九州大学
24．狩野　彰宏	九州大学
25．柴　正博	東海大学社会教育センター
26．田村　嘉之	千葉県環境財団
27．保柳　康一	信州大学
28．吉川　敏之	産業技術総合研究所
29．渡部　芳夫＊＊	産業技術総合研究所
30．荒戸　裕之	国際石油開発帝石（株）
31．公文　富士夫	信州大学
32．紺谷　吉弘	立命館高等学校
33．坂口　有人	海洋研究開発機構
34．竹下　徹	北海道大学
35．内藤　一樹	産業技術総合研究所
36．平田　大二	神奈川県立生命の星・地球博物館
37．藤本　光一郎	東京学芸大学
38．松田　博貴	熊本大学
39．松原　典孝	茨城大学
40．三次　徳二	大分大学
41．稲場　土誌典	国際石油開発帝石（株）
42．片山　肇	産業技術総合研究所
43．川端　清司	大阪市立自然史博物館
44．小荒井　衛	国土地理院
45．榊原　正幸	愛媛大学
46．久田　健一郎＊＊	筑波大学
47．道林　克禎	静岡大学
48．渡辺　真人	産業技術総合研究所
49．仲谷　英夫	鹿児島大学
50．磯部　博志	熊本大学
51．阿部　なつ江	海洋研究開発機構
52．卜部　厚志	新潟大学
53．大久保　進	石油資源開発（株）技術研究所
54．小尾　靖	神奈川県立相武台高等学校
55．海保　邦夫	東北大学
56．笠原　豊	千葉県環境研究センター
57．川端　訓代	（台湾）国立中央大学地球物理研究所
58．北原　哲郎	応用地質（株）
59．倉本　真一	海洋研究開発機構
60．斎藤　実篤	海洋研究開発機構
61．阪口　秀	海洋研究開発機構
62．高橋　正樹	日本大学
63．竹内　章	富山大学
64．中江　訓	産業技術総合研究所

65. 西山　忠男　　熊本大学
66. 楡井　　久　　NPO日本地質汚染審査機構
67. 古野　邦夫　　千葉県環境研究センター
68. 前川　寛和　　大阪府立大学
69. 町山　栄章　　海洋研究開発機構
70. 宮下　純夫*　　新潟大学
71. 向山　　栄　　国際航業（株）
72. 向吉　秀樹　　（株）マリン・ワーク・ジャパン
73. 村山　雅史　　高知大学海洋コア総合研究センター
74. 安藤　寿男　　茨城大学
75. 磯崎　行雄　　東京大学
76. 重松　紀生　　産業技術総合研究所
77. 柴田　伊廣　　神奈川県立生命の星・地球博物館
78. 佃　　栄吉　　産業技術総合研究所
79. 橋本　善孝　　高知大学
80. 府川　宗雄　　なし
81. 松岡　　篤　　新潟大学
82. 三田村　宗樹　　大阪市立大学
83. 宮田　隆夫　　神戸大学
84. ウォリス　サイモン　　名古屋大学
85. 前田　仁一郎　　北海道大学
86. 宮下　　敦　　成蹊中学高等学校
87. 杉田　律子　　科学警察研究所
88. 小澤　一仁　　東京大学

地方支部区　（　）内定数

注）理事の支部枠選出のための投票をして下さい.

立候補者名　　所属機関名

北海道（5）

1．松田　義章　　北海道札幌稲北高等学校
2．田近　　淳　　北海道立地質研究所
3．吉本　充宏　　北海道大学
4．岡村　　聡　　北海道教育大学札幌校
5．山本　正伸　　北海道大学

東北（6）

1．永広　昌之　　東北大学総合学術博物館
2．菖蒲　幸男　　応用地質（株）
3．大友　幸子　　山形大学
4．加々島　慎一　　山形大学
5．土谷　信高　　岩手大学
6．西川　　治　　秋田大学

関東（41）

1．京相　健二　　太平洋セメント（株）
2．伊藤　谷生　　千葉大学
3．木村　克己　　産業技術総合研究所
4．飛田　健二　　応用地質（株）
5．芦　寿一郎　　東京大学
6．笠間　友博　　神奈川県立生命の星・地球博物館
7．川浪　聖志　　明治コンサルタント（株）
8．森田　澄人　　産業技術総合研究所
9．吉岡　　正　　応用地質（株）
10．足立　勝治　　アジア航測（株）
11．山本　高司　　川崎地質（株）
12．安藤　　伸　　応用地質（株）
13．岩森　　光　　東京工業大学
14．緒方　信一　　中央開発（株）
15．鎌滝　孝信　　応用地質（株）
16．利光　誠一　　産業技術総合研究所
17．中澤　　努　　産業技術総合研究所
18．古川　竜太　　産業技術総合研究所
19．本田　尚正　　茨城大学
20．松浦　一樹　　（株）ダイヤコンサルタント
21．荒井　晃作　　産業技術総合研究所
22．市川　八州夫　　応用地質（株）
23．小田原　啓　　神奈川県温泉地学研究所
24．金松　敏也　　海洋研究開発機構
25．亀尾　浩司　　千葉大学
26．楠田　　隆　　千葉県環境研究センター
27．高野　　修　　石油資源開発（株）技術研究所
28．外田　智千　　国立極地研究所

中部（18）

1．石田　桂　　信州大学
2．鎌田　雅道　　応用地質（株）
3．北村　晃寿　　静岡大学
4．大谷　具幸　　岐阜大学
5．柏木　健司　　富山大学
6．河本　和朗　　大鹿村中央構造線博物館
7．東田　和弘　　名古屋大学博物館
8．永田　秀尚　　（有）風水土
9．延原　尊美　　静岡大学
10．山本　博文　　福井大学
11．大藤　　茂　　富山大学
12．椚座　圭太郎　　富山大学
13．栗田　裕司　　新潟大学
14．竹内　　誠　　名古屋大学
15．角田　謙朗　　山梨大学
16．豊島　剛志　　新潟大学
17．吉田　孝紀　　信州大学
18．大塚　　勉　　信州大学

近畿（12）

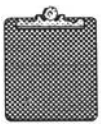
1．宮川　歩夢　　京都大学
2．石井　和彦　　大阪府立大学
3．上原　祐治　　応用地質（株）
4．大串　健一　　神戸大学
5．奥平　敬元　　大阪市立大学
6．小林　文夫　　兵庫県立人と自然の博物館
7．竹村　厚司　　兵庫教育大学
8．田中　里志　　京都教育大学
9．中条　武司　　大阪市立自然史博物館
10．升本　眞二　　大阪市立大学
11．山路　　敦　　京都大学
12．和田　穣隆　　奈良教育大学

四国（4）

1．佐野　　栄　　愛媛大学
2．村田　明広　　徳島大学
3．寺林　　優　　香川大学

西日本（14）

1．太田　泰弘　　北九州市立自然史・歴史博物館
2．柚原　雅樹　　福岡大学
3．下山　正一　　九州大学
4．豊原　富士夫　　熊本大学
5．宮本　隆実　　広島大学
6．山田　靖司　　応用地質（株）
7．池上　直樹　　御船町恐竜博物館
8．尾上　哲治　　鹿児島大学
9．酒井　哲弥　　島根大学
10．辻森　　樹　　岡山大学地球物質科学研究センター
11．福地　龍郎　　山口大学
12．岡本　真琴　　九州国際大学
13．加藤　敬史　　倉敷芸術科学大学
14．西園　幸久　　西日本技術開発（株）



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

第55回日本水環境学会セミナー「水辺の再生」

水辺空間は，人々の憩いの空間，子供の遊び場所として重要な役割をはたしている．しかしながら都市域の河川をはじめとする水辺の多くは，未処理の生活雑排水が流入したり，排水処理過程で除去ができない物質が流入し，有機物・有害化学物質などにより汚染され，生き物の減少や種の単純化が起こっている．このような背景のもと，中小河川，身近な水辺である水路，ため池，濠のさらなる水質改善および多様な生き物が生育・生息する場としての保全・再生が必要とされている．本セミナーでは水辺の再生の方向性，生物・物理化学的手法による水辺環境の保全・再生技術についてご講演いただきます．

主　催：(社) 日本水環境学会
期　日：2010年１月22日（金）９：55-16：45
場　所：自動車会館　大会議室（東京都千代田区九段南4-8-13／Tel. 03-3264-4719）
参加費：会　員／7,000円　非会員／14,000円
　学生会員／3,000円
定　員：180名

申込方法：
　FAX，E-mail，またはハガキに①参加者氏名（フリガナ），②会員・非会員の別，③会員の場合は会員番号，④連絡先（所属団体名，住所および電話・FAX番号）をご記入の上，下記宛てお申し込み下さい，また，**参加費を１月15日までにお振り込み下さい．**入金を確認後，参加証（ハガキ）をお送りいたします．
参加費振込先：三菱東京UFJ銀行　市ヶ谷支店（普通）0754950
(社) 日本水環境学会セミナー口
シャ）ニホンミズカンキョウガッカイセミナーグチ

申し込み・問い合わせ先
　(社) 日本水環境学会　セミナー係
　〒135-0006　東京都江東区常盤2-9-7
　グリーンプラザ深川常盤201号
　Tel. 03-3632-5351　　Fax. 03-3632-5352
　E-mail： yamamoto@jswe.or.jp

平成21年度国土技術政策総合研究所講演会

日時：2009年12月２日（水）10：00-16：50
主催：国土交通省国土技術政策総合研究所
場所：日本教育会館一ツ橋ホール
　（東京都千代田区一ツ橋2-6-2）
入場無料
定員900名・申込先着順．※本講演会は土木学会認定CPDプログラムに登録されています（5.5単位）．

特別講演「無駄とは何か」西成活裕（東京大学先端科学技術研究センター教授）
その他一般講演

問い合わせ先
　国土交通省国土技術政策総合研究所企画部企画課
　〒305-0804　茨城県つくば市旭１
　電話　029-864-2674　FAX　029-864-1527
　http://www.nilim.go.jp/lab/bbg/kouenkai/kouenkai2009/kouenkai2009.htm

第46回の霞ヶ関環境講座/第37回三宅賞受賞者の受賞記念講演

主催：地球化学研究協会
日時：2009年12月５日（土）14：30～
場所：霞ヶ関ビル35階　東海大学校友会館
参加費：賛助会員および学生は無料，一般1,000円（資料代を含む），懇親会へも参加できます．

講座：「環境問題の解決に向けて」和田秀徳先生（東京大学名誉教授）
受賞記念講演：「アクチノイド元素を用いた大気・海洋の物質動態に関する研究」三宅賞受賞者・廣瀬勝己博士（上智大学理工学部物質生命科学科客員教授）

詳しくは，http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

日台科学技術交流の各種事業応募者募集

財団法人交流協会では，科学技術分野（※）につき，日本と台湾の共同研究開発や人材育成の一助として，次の事業を実施しております．現在，平成22年度事業の応募者を募集を行っております．（※）主に先端技術（IT分野，生命科学，新素材等），環境・エネルギー，医療・福祉及び防災．

Ⅰ．若手研究者交流
　日本の大学院で研究活動を行っている大学院生とその指導教官対象．個人派遣（長期）とグループ派遣（短期）があります．
Ⅱ．セミナー・シンポジウム助成
　日本または台湾で開催する日台合同セミナーやシンポジウムに開催経費や参加者の旅費等を助成します．
Ⅲ．共同研究助成
　台湾の研究機関等と共同研究を行う大学等研究機関に研究経費を助成します．
各事業の詳細は交流協会ホームページをご参照下さい．

締切：**2009年12月25日（金）**

問い合わせ先
　財団法人交流協会
　〒106-0032　東京都港区六本木3-16-33
　青葉六本木ビル７階
　TEL：03（5573）2600（代表）
　FAX：03（5573）2601
　http://www.koryu.or.jp/

第51回藤原賞受賞候補者募集

推薦の対象：自然科学分野に属するもの．

受賞候補者：日本の国籍があり，かつ日本在住の方であれば，他に賞を受けられた方でも，また以前に推薦された方でも結構です．
＊受賞候補者には必ず所属組織，研究機関の長の推薦が必要です．

推薦要項書：（No.１，No.２の２枚，コピーでも可）に，必要事項を記入してお送り下さい．なお参考資料として，受賞候補者の受賞対象題目と関係する主要論文テーマ（10篇以内）のリストおよび主要論文３篇以内の別刷（コピーでも可）を各１部ずつ，同封してお送り下さい．この資料はご返却いたしませんのでご了承願います．

選考：５つの分科（１数学・物理，２化学，３工学，４生物・農学，５医学）に分けて行いますので，推薦要項書Ｐ1上段の希望分科欄に推薦者が考えた希望の分科を○印で囲んでください．ただし，決定は選考委員会が行います．

推薦要項書提出締切日：**2010年１月31日（日）（学会締切１月15日）**

推薦要項書送り先：
　〒104-0061　東京都中央区銀座３丁目７番12号（王子不動産銀座ビル）
　財団法人　藤原科学財団
　TEL（03）3561-7736
　FAX（03）3561-7860
　詳しくは，http://www.fujizai.or.jp

紹　介

地球（岩石圏）の歴史（上巻）
『星野学説』に学ぶ
―地球の微膨張説―

佐藤久夫　編著

（イー・ジー・サービス出版部，
2009年８月１日第１版第１刷発行，
Ｂ５版，236頁，定価3,000円（税込））

地球，特に岩石圏はどのようにして形成されたのであろうか．地球の歴史に興味を持ち北海道で地質コンサルタントをしているのが編者の佐藤久夫氏である．過日，恩師である星野通平先生，編者らと銚子へ１泊旅行に行き，先生の研究の一端を直接伺うことができた．38年前の学生時代に参加していた早朝ゼミを懐かしく思い出した．そこで感じたのが，①仮説は仮説として尊重されるべきであり，それは，生産の場で実証されるべきであるという姿勢，②ご自身が壮大な仮説を立てて，その基本理論に沿って今も研究を続けられている強い意志，であった．その時に編者から紹介された書籍が本書である．

星野先生の書籍は，普及本を除いて難解に感じている．それは研究対象が地球の生成・展開・消滅に関する歴史科学である地質学の法則性を追求しているからであろう．読者としては，様々な専門用語の理解で行き詰ってしまう．この点を補足してくれるのが本書である．その特徴は，①編者の目で星野学説を忠実に要約していること，②各部の後に「用語説明」をしていること，③編者が理解した内容を図に表現していること，があげられる．

本書の内容は，星野先生の著書である『玄武岩時代』，『海水準と地殻の発達』，『海洋地質学』，『The Expanding Earth』，『膨らむ地球』，『地球の半径』，『毒蛇の来た道』，『海と島じま』，『太平洋の科学』，『海底の世界』を主に参考にして取りまとめられている．その構成はつぎの４部構成となっている．

Ⅰ部の「地球・海水準・発達史」では，地球の構造，岩石圏の意義と地質学の対象を前段で記し，海水準の意義とその変化についてまとめている．本部の後半は，地球の発達史について，著者の地史区分である花崗岩時代，漸移時代，玄武岩時代にしたがって整理している．発達史などについて，編者が整理した図表が８枚入っており，理解しやすくなっているのが特徴である．編者の研究ノートとして苦心された後が伺える．

Ⅱ部の「地質学に関する基本的事項」では，地殻発達の主要対立要素である“台地と地向斜”，地球の膨張を考察するうえで重要な“ユースタシー”，“海進と海退（地殻の隆起と沈降）”の概念を整理し，後半で古海水準の具体的な指標について整理している．「古海水準の指標」については，編者が世界地図に「各時代の陸橋」や「世界各地の残留盆地」の位置を整理しており，世界各地の事例が図とともに簡潔に紹介され，全体像がわかりやすく工夫されている．

Ⅲ部の「玄武岩時代の諸問題」では，「玄武岩時代（中生代・新生代）の地質現象であるリフト，テーチス，ヒマラヤ・チベットの隆起，ネオテクトニクス期の隆起」を整理し，後半では「玄武岩時代」の古気候と生物，第四紀の諸問題についてまとめている．前半部ではプレート論者の論拠では説明のつかないいくつかの事項が整理されており，地球の微膨張説との論点がわかりやすい．後半部では第四紀の諸問題で応用地質分野に大きく関わりのある地殻変動，赤色土・くさり礫・山砂利，海水準に係る事項が整理されていて参考になる．

Ⅳ部の「日本列島（西南日本）の形成史」では，著者が西南日本のオフィオライト帯（南方への衝上断層）と日本海中央台地を結びつけることが重要な鍵穴である，と述べているように，中央台地の隆起とオフィオライトは層状（分化）火成岩体によるものであり，地向斜帯のオフィオライトもその分枝であると説いている．バリスカン造山運動によって原型を整えた日本海盆の起源からはじまり，「玄武岩時代」の花崗岩活動とその再生を述べ，海水準変動からみた日本海の発達史を整理している．この中では，「プレート説とフォッサマグナ」の項でプレート説では説明されていない論点が整理されており，改めて課題を確認できる．

巻末には年表「地質・海洋分野での出来事と社会の動き」が添付され，地質・海洋分野での出来事と星野通平先生の研究業績が社会の動きと連動させて概観できるので助かる．編者の性根のすわった研究ノートの跡が伺える年表である．

読み終えて，地質学の対象はすべて地域的であり，物理・化学の分野と大きな違いを持っていることが理解できた．本書は上巻であり，下巻の目次もできている．発刊が楽しみである．

編者は地質コンサルタントとして，あらゆることの発想やその適用は「フィールド（現場）に始まり，現場に終わる」ことを肌で感じているはずである．生産の第一線で，星野学説を現場で実証しようと日々研鑽されている．あとがきの“師の恩にむくいる道は，その否定的精神をうけつぎ，師の業績をのり越えて進むことにある”という教えを心に，これからも努力をつづけたいと記している．編者は本書の執筆前の2005年から2008年にかけて，星野先生の主要著書について『地球（岩石圏）の歴史年表』，『海洋域の諸問題』，『地球の成因論と“プレート説”批判集』に整理している．星野学説を学ぶ姿勢がそのままこれらの出版物に現われているといえる．“教え子は教師の人格の集大成である”と言われるが，編者はその一人であろう．

本書は“星野学説”の「地球の微膨張説」が分かりやすく整理されているので，多くの方々に本書をお薦めしたい．

本書の注文は下記に申し込めば，送料込み3000円で購入できる．
イー・ジー・サービス出版部
TEL 011-583-8881，fax011-583-5457
E-mail：press@egs.co.jp

（足立勝治）

IGCPニュース2008－2009

IGCP国内委員会は，日本地質学会Newsを通じて，毎年活動報告を行ってきた．しかし，ユネスコ本部で毎年２月に開催されるIGCP理事会は，平成20年２月には国際惑星地球年（IYPE）の開会イベントが理事会直前に開催され，理事会そのものは非公開部分のみの会議となった．そのために，例年報告している新しいIGCPプロジェクトの採択等の報告ができなくなったことから，今回２年分をまとめて報告することとした．なお，日本IGCP国内委員会事務局は，現在神戸女子大学（〒654-8585　神戸市須磨区東須磨青山2-1）においており，国内委員会の活動報告等はhttp://www.suma.kobe-wu.ac.jp/wu/igcp/で公開している．

1. IGCP国内委員会（地球惑星科学委員会IUGS分科会IGCP小委員会）

平成19年度は第20期第４回を平成19年９月21日，第５回を平成20年２月27日と計２回（平成19年度から，それまで年３回開催していた委員会を年２回とした），また平成20年度は第20期第６回を平成20年９月19日，第21期第1回を平成21年２月25日と計２回の委員会を日本学術会議で開催した（ただし，第21期第１回は日本学術会議の事務手続きが間に合わず，非公式な会議となった）．平成19－20年度に審議・決定・実施した主な事項について以下に報告する．

1）日本学術会議の組織改変に伴い，第21期第１回の委員会で新しく組織されたIGCP小委員会の委員長及び幹事の選出について審議し，波田重熙委員長及び斎藤文紀幹事を再任した．また，石田委員から平成19年末をもって委員を辞職したいとの申し出が，学術会議及び波田委員長にあり承認された．

2）IGCPプログラムの恩恵については，若手の育成，アジアの大学や研究機関とのコミュニティーづくりで多いにメリットがある．しかしながら，これらがうまく宣伝できていないことが考えられ，IGCP全般ではなく，アジアが見えてくる，アジアを意識したアピールが必要ではないかとの意見が出された．

3）地学オリンピックに関して，IGCP国内委員会からユネスコ国内委員会への橋渡しの希望が出されたが，現状では難しいことが報告された．

4）平成19年度及び20年度の日本IGCP国内委員会活動報告を，それぞれ12月にユネスコ本部に提出した．また，日本国内委員会の活動報告書として，“Japan Contribution to the IGCP: Activity Report in 2007”及び“同2008”，また「日本IGCP活動報告2007」及び「同2008」をそれぞれ２月にまとめ，Web上で公開した．

2. IGCP本部

第37回IGCP科学理事会は平成21年２月18日―20日にパリのユネスコ本部で開催され，各プロジェクトの活動の評価，各国内委員会報告の検討，新しいIGCPプロジェクトの採択，IGCPと関連するIBSP,IHPやMABなどとの情報交換等の例年の議題に加えて，国際惑星地球年に関する報告等がなされた．なお，IGCP科学理事会のオープンセッション（２月20日）に，日本からは日本IGCP国内委員会波田委員長が参加し，国内委員会の活動報告を行った．

3. IGCP国内委員会

委員長　波田重熙（ユネスコ国内委）
幹　事　斎藤文紀（475）
委　員
平野弘道（434）　後藤仁敏（491）
石田啓祐（506）　坂井　卓（507）
久田健一郎（516）　村尾　智（産総研）
本吉洋一（極地研）

4. 現在日本がLeadershipをとっているプロジェクト（平成20年度）

No.475 Deltas in the Monsoon Asia-Pacific Region（DeltaMAP）（2003-2008）
Co-Leader：斎藤文紀
No.507: Paleoclimates of the Cretaceous in Asia（2006-2010）
Co-Leader：坂井　卓
No.516: Geological Anatomy of East & South Asia（2005-2009）
Co-Leader：久田健一郎

5. 現在日本で活動しているプロジェクト

No.467: 上掲
No.475: 上掲
No.476: 上掲
No.491: Middle Palaeozoic Vertebrate Biogeography, Palaeogeography and Climate（2003-2007）
Representative：後藤仁敏
No.506: Marine and Non-marine Jurassic（2005-2009）
Representative：石田啓祐
No.507: 上掲
No.516: 上掲

6. 2008－2009年（平成20－21年）度の日本の活動

No.475：「モンスーンアジア太平洋地域のデルタ」

プロジェクトは平成19年度で終了したが１年の延長が認められ，最後の集会を平成20年10月26日から11月２日に中国の上海と青島で開催した．またマレーシア，韓国，インドネシア，中国，ベトナムにおいて，人材育成を目的にデルタセミナーを開催した．これらセミナーの総参加者数は300名を超えている．ESPLから特集号が企画されている．

No.476：「アジアにおけるモンスーンの発達と構造運動－気候変動のリンケージ」

プロジェクトは平成19年度で終了し，継続プロジェクトを中国人のコリーダーが中心となり提案予定である．

No.491：「古生代中期の脊椎動物生物地理・古地理・気候」

プロジェクトは平成19年度で終了し，そのとりまとめの特集号がElsevierの「Palaeoworld」から企画準備されており，日本からも投稿を予定している．

No.507：「アジアの白亜紀古気候」

第２回国際シンポジウムと野外見学会を平成19年８月20－26日ソウル大学（韓国）で開催し，８ヶ国からの出席者（日本からも10名が参加）による39編の成果発表があった．また，野外見学会（8/22－26）は全羅南道・慶尚南道の下部白亜系で実施された．このシンポジウムの論文集は，Cretaceous Researchの特集号として出版予定である．また，平成20年８月15-20日にモンゴルでシンポと巡検が開催し，６ケ国から59名が参加した．日本からの参加が最も多く，幅広い年代，特に若手の参加が多かった．今までの発表成果をとりまとめて，Island Arc, JAESでの特集号で公表することを検討している．

No.516：「東・南アジアの地質学的解剖」

平成19年度中に，IGCP-516が共催した国際会議は，以下の通りである．

・16th International Congress on the Carboniferous and Permian（21-24 June, 2007, Nanjing, China）
・Eurasian Geological Seminar 2007 - Geodynamic Process of Asia: Its origin, Crustal Evolution, and Natural Resources Potential（18-28, July, 2007, Uraanbaatar, Mongolia）
・4th ASIA OCEANIA GEOSCIENCES SOCIETY（AOGS）（30 July-4 August, 2007, Bangkok, Thailand）
・4th International Symposium on Gondwana to Asia & 2007 IAGR Annual Convention（8-10 November, 2007, Fukuoka, Japan）

第１回（日本）及び第２回の国際シンポジウムの論文集を「Island Arc」の特集号として編集作業中で，平成21年に出版予定である．なお，第３回国際シンポジウムは，平成20年10月8-14日にインドのデリー大学において開催した（10-14日にはインド北部への巡検）．13ヶ国から約75名が参加した．第４回会合はタイのチュラロンコン大学の地質学教室の創立50周年記念事業と合わせて，平成20年11月24-26日に開催予定でファーストサーキュラーを配布中．第５回会合は，平成21年に中国開催で，準備中である．

7. 新しいプロジェクト

平成20年２月14日～15日及び平成21年２月18～20日に，パリのユネスコ本部で開かれた第36回及び37回のIGCP科学理事会で受理さ

れ新しく発足するプロジェクトは，以下の通りである．

IGCP-559: Crustal Arcitecture and landscape Evolution（2008-2012）. Prof. Bruce R. Goleby, GPO Box 378, Canberra ACT 2601,Australia. E-mail: bruce.goleby@ ga. gov.au

IGCP-565: Geodetic Monitoring of the Global Water Cycle（2008-2012）. Prof. Hans- Peter Plag, University of Nevada, Reno Nevada Bureau of Mines and Geology and Seismological Laboratory, Mail Stop 178, Reno, NV 89557, USA. E-mail: hpplag@unr. edu

IGCP-567: Earthquake Archaeology-Archaeoseismology along the Alpine-Himalayan seismic zone（2008-2012）. Manuel Sintubin, Department of earth & Environmental Sciences, Katholieke Universiteit Leuven, Celestijnenlaan 200E, B-3001Leuven, Belgium. E-mail: manuel.sintubin@ees.kuleuven.be

IGCP-571: Radon, health and natural hazards（2009-2014）. Gavin K. Gillmore , Head of School, Geography, Geology and the Environment, Centre for Earth and Environmental Sciences Research（CEESR）, Kingston University, Penrhyn Road, Kingston-upon-Thames, Surrey KT1 2EE, UK. Email: G.Gillmore@kingston.ac.uk.

IGCP-572: Permian-Triassic ecosystems（2008-2012）. Zhong Qiang Chen Australian Research Fellow/Qu II Fellow, School of Earth & Geographical Sciences, The University of Western Australia, 35 Stirling Highway Crawley, WA 6009, Australia
E-mail: zqchen@cyllene.uwa.edu.au

IGCP-574: Bending and Bent Orogens, and Continental Ribbons（2009-2013）. Prof. Stephen T. Johnston, School of Earth & Ocean Sciences, University of Victoria
PO Box 3055 STN CSC, Victoria, British Columbia V8W 3P6, Canada. Email: stj@uvic. ca

IGCP-580: Application of magnetic susceptibility on Paleozoic sedimentary rocks（2009-2014）. Dr. Anne-Christine da Silva, Pétrolgie sédimentaire, B20 Boulevard du Rectorat 15, Université de Liége, 4000 Liége, Belgium. E-mail :ac.dasilva@ulg.ac.be

IGCP-581: Evolution of Asian River Systems（2009-2014）. Prof. Hongbo Zheng, School of Earth Science and Engineering Nanjing University 22 Hankou Road, Nanjing, 210093, China. E-mail: zhenghb@nju.edu.cn

IGCP-582: Tropical Rivers: Hydro-Physical Processes, Impacts, Hazards and Management（2009-2014）. Dr. Edgardo M. Latrubesse, Universidad Nacional de La Plata- Centro de Investigaciones Geológicas-CIG, Calle 1 N0644, 1900-La Plata. Email : latrubesse@yahoo.com.br latrubessee@ecu.edu

以上の結果，現行のプロジェクトは，O.E.T.（期間延長）の7を含めて計37となる．新しいプロジェクトに参加しておられる方，および，参加を希望される方は下記にご連絡下さい．

新規プロジェクトの提案をお考えの方は，下記まで御連絡下さい．申請要領や申請書類は，ユネスコのホームページhttp://www.unesco.org/science/earth/を御覧下さい．近年，新規のプロジェクトの申請が途絶えています．ぜひ提案についてお考えください．毎年ユネスコの提出期限は10月15日です．なお，国内委から推薦するために，提案者にご出席戴きプロジェクトについて説明を受けるための国内委員会を毎年9月初旬に開催しており，来年もその頃開催する予定です．

御質問等は，下記にお寄せ下さい．

日本IGCP国内委員会事務局
〒654-8585　神戸市須磨区東須磨青山2-1
神戸女子大学大学文学部
電話：078-737-2097　Fax: 078-732-5161
http://www.suma.kobe-wu.ac.jp/wu/igcp/
E-mail: hada@suma.kobe-wu.ac.jp

（文責　**波田重熙**）

116年年会記事（岡山大会）

10月号でお伝えしきれなかった，岡山大会の記事をご紹介致します．

見学旅行

E班　秋吉石灰岩から読み取る石炭・ペルム紀の古環境変動―美祢市（旧秋芳町）秋吉台科学博物館創立50周年記念巡検―

9月7日（月）～8日（火）実施
案内者：佐野弘好・杣山哲男・長井孝一・上野勝美・中澤努・藤川将之
参加者：一田昌宏・尾勢康貴・岡田大爾・寺部和伸・細谷正夫・宮地克也

【参加者の感想】

はじめに，案内してくださった佐野先生，長井先生，上野先生，中澤先生，秋吉台科学博物館の藤川先生，そして巡検の補助をしていただいた比嘉さんに厚く御礼を申し上げます．

現在，私は阿哲石灰岩で現地調査を行っているが，同じ秋吉帯に分布する秋吉石灰岩を堆積学的な観点からもレクチャーしていただけると知り，この巡検に参加した．

初日は，美祢市鳳の巣北西（Stop 1）において秋吉石灰岩の最下部を特徴付けるoolitic grainstoneとcrinoidal grainstoneそしてNagatophyllum礁石灰岩を観察した．海山頂部石灰岩堆積の初期段階を観察できた．本巡検でサンプルが採集できるのは，この露頭のみであったので参加者はおのおのサンプル採集を行っていた．昼食の後，秋吉台上の冠山遊歩道（Stop 2）に向かった．ここでは，ChetetesによるBashkirianやMoscovianの礁フレームワークや当時の海水準変動によって陸化し形成された洞窟堆積物が観察された．Stop 3は地獄台遊歩道近くに分布するMicrocodium石灰岩であった．Microcodium構造は石灰岩が陸化し，淡水影響下で続成変質され形成されるものであるが，初めて野外で観察することが出来，非常に感激した．その夜の懇親会の席では活発な議論と情報交換をすることができ，非常に有益な時間を過ごさせていただいた．巡検二日目の予定は，帰り水ドリーネ（Stop 4-6）での露頭観察の後，同層準のボーリングコアを秋吉台科学博物館で観察（Stop 7）した．Stop 4, 5で下部ペルム系干潟相堆積物や中部ペルム系離水砂浜相及び干潟相堆積物の特徴の解説を受け，討論ののち，秋吉台科学博物館において先述のボーリングコアを観察と説明を受けた，このボーリングコアからは，中期ペルム紀の多種にわたる紡錘虫や種々の堆積相で構成される堆積サイクルとサイクル境界が観察された．その後，秋吉台科学博物館内を案内していただき，先のボーリングコアの苦労話まで聞くことが出来た．

本巡検では今後の研究に生かすことが出来る様々な経験(特に露頭やコアでの観察など)をさせていただいた．この様な素晴らしい巡検を企画・案内してくださった方々に再度御礼申し上げます．

（京都大学理学研究科地質学鉱物学教室
後期博士課程2年　**一田昌宏**）

学協会・研究会報告

第８回国際エクロジャイト会議参加報告

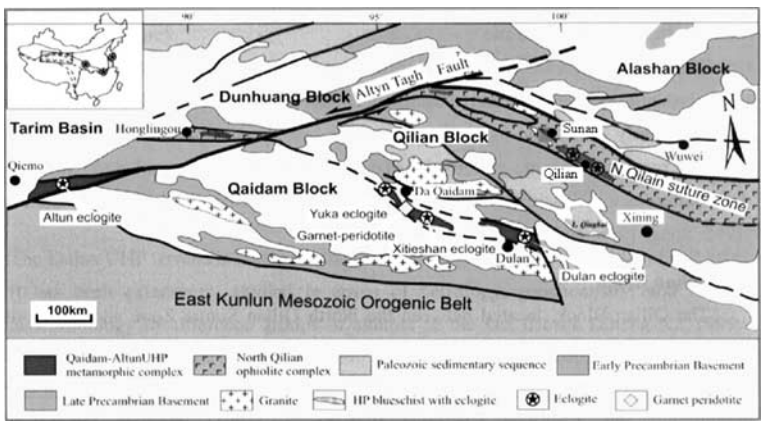
平島崇男（京都大学大学院理学研究科・IECCC日本代表委員）
Dirk Spengler（愛媛大学地球内部ダイナミクスセンター）

中華人民共和国青海省の西寧（Xining）を中心に，2009年８月24日から９月４日までの日程で，第８回国際エクロジャイト会議が開催された．この会議の目的は，エクロジャイトや藍閃片岩などプレート収束帯の地下深部で形成された岩石類のナノ～マクロスケール組織の多角的情報をもとに，それらの形成条件やプレート収束帯の地下深部過程の実像を精緻化し，地球規模造山運動の解明を行うこと，院生・ポストDrクラスの若手研究者の実地教育などである．

会議の実施母体として，ボランティアベースのInternational Eclogite Conference Co-ordinating Committee（IECCC：国際エクロジャイト会議組織委員会）が組織されており，IECの会期中に開催される実務委員会で次期開催国を決定している．会議の実施・運営は，実務委員会で承認を受けたホスト国の組織委員会が担当しており，今回の第８回会議は，中国科学院地質研究所（北京）の叶凱（Ye Kai）教授が代表となり，中国科学院広州地球化学研究所・北京大学・中国地質大学・合肥科学技術大学・西安大学など中国の主要な高圧変成岩研究者が総力をあげて学術講演会と野外巡検の実施を担当した．若手の参加希望者には，些少ながら，会議参加のための旅費援助が行われた．

中国・紅蘇省東海地区で超高圧変成岩類の深層掘削が開始されて以降，中国の超高圧変成岩類研究は大きな進展を見せている．中国の超高圧変成岩研究は，1996年に万国地質学会が北京で開かれた頃は，中国東部の大別山・蘇魯地域が中心であったが，その後，中国西南部地域の研究が盛んになり，チベット高原の北端，あるいは，チベット高原の内部に複数の高圧変成岩類が分布する様子が明らかになってきた．ここでいうチベット高原とは，概ね，現在の青海省とチベット自治区からなる地域であり，今回の会議の野外巡検の見所は，チベット高原北端に位置するQilian-Qaidam山地に分布する古生代前期の海洋地殻とそれに引き続く大陸地殻の沈み込みに伴い形成された（超）高圧変成岩類の見学であった（第１図）．

Pre-conference巡検は，８月25日～27日までの２泊３日の行程で，青海省と甘粛省に跨って分布するNorth Qilian suture zone（第１図）の，古生代前期のフリッシュ性堆積物，遠洋性堆積岩，オフィオライト，ならびにそれらを原岩とする高圧変成岩類を対象に実施された．集合地の西寧市は青海省の北東端に位置しており，標高は2100mを超えている．Pre-conference巡検の見学地群は，西寧市の西北西150-300km付近に位置しており，現地に到着するまでに，西北西―東北東方向に走るQilian山脈の3000-4000m級の峠を幾度も越えた（第２図）．特に，巡検初日と２日目は移動に時間を要したためか，ランチのための停車休息時間が設けられず，参加者全員，事前に渡されたランチパックを走行中の車内で頂くことになった．ちなみに，その中身は，パン２個，キュウリ１本，りんご（あるいはトマト）１個，ソーセージ２本，真空パックのゆで卵１個，ザー菜パック１個であった．巡検地に多く居住している回族や少数民族に配慮してか，ソーセージは牛肉製と鳥肉製であった．巡検初日の甘粛省粛南の宿の夕食では，回族用と非回族用の食堂が用意された．回族用の食卓を覗くことはできなかったが，非回族用の食卓は，骨付き牛肉の塩茹で以外は，脂っこい炒め物中心の料理で，これらをビール無しで頂くのは，やや苦痛であった．



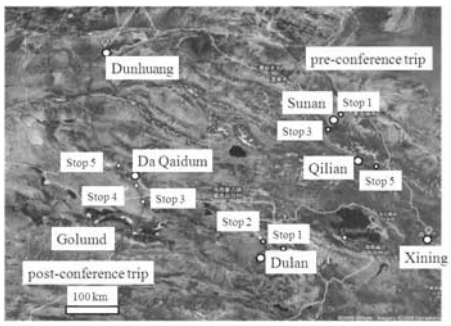
第１図

Pre-conference巡検で，参加者が大いに興奮した露頭群は二つあった．最初の露頭群は，巡検２日目，青海省と甘粛省の境にあたる標高4120mのDachadaban峠の周辺．そこでは，未・弱変成のオフィオライト・ユニットを構成するハイアロクラスタイト，枕状溶岩，ドレライト岩脈，ガブロ，超塩基性岩などを観察した．magmatic zirconのU-Pb SHRIMP年代は496-554 Maとのこと．これらの岩石は古生代前期のものとは思えぬほど新鮮で，原岩組織を鮮明に保持しており，枕状溶岩の形状から，固結時の上下判定が可能であった（第３図）．この露頭群の周辺は森林限界を越えており，植生は下草と疎らな低木に限られるが，ヤクや羊の放牧地となっていた．参加者一同，車窓から見える雪山風景や放牧家畜の写真撮影に余念が無かった（第４図）．

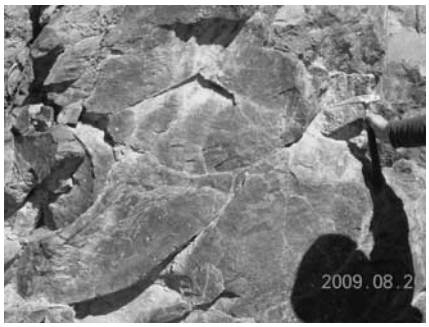
二つ目の露頭群は，巡検３日目，青海省Qilianの町の東方約30kmに位置するエクロジャイト相の岩石の露頭群であった．エクロジャイトのザクロ石にはローソン石が含有され，一部の泥質変成岩からはMg-carpholite（$Mg_2Al_2Si_2O_7(OH)_2$）が見出されており，非常に低い地温勾配で形成され高圧変成岩類であるとの説明を受けた．Mg-carpholiteは，1973年にフランスのGoffé達によって，西アルプスの高圧変成帯の低変成度部から見出されエクロジャイト相の低温高圧条件の指標鉱物として注目を集めているが，日本の高圧変成帯からは未だ見出されていない．

この巡検は，北京大学のSong Shuguang教授をリーダーとして実施された．Song教授は北京大学に移られる前は，西安の地質調査所に所属し，Qilian山脈の地質調査に従事されていた．当時は道路事情が悪く，西安から現地まで片道４日の行程を強いられたとのこと．僻地で，しかも空気の薄い高地での粘り強い地質調査を続行されたことに，頭が下がる思いであった．

28日～30日の学術講演会は
・Mineralogy & petrology of HP-UHP rocks (experiment & natural studies)
・Geochemistry & geochronology of HP-UHP rocks
・Fluids and melts of HP-UHP rocks (experiment & natural studies)
・Orogenic peridotite
・UHP in western China
・Ultra deep subduction & exhumation, connections to mantle convections, plumes and surface processes.
の６つのテーマに対し，59件の口頭発表，37



第２図



第３図

第４図

件のポスター発表が披露された．このうち，中国人以外の口頭発表は15カ国からの参加者による21件，中国人以外のポスター発表は12件で，全体の2/3程度の講演を中国人が行った．まさに，この10年間の中国での高圧変成岩研究の進展を目の当たりにした．日本人は，私を含めて４人が参加し，公演を行ったが，日本のエクロジャイトに関する報告は１件のみで，少し残念な思いであった．Jane Gilotti（米）によると，口頭発表のうち約15%は女性研究者によってなされたとのこと．日本の学界では果たしてどうか？

今回のアメリカからの参加者は，女性５人に対し男性３人であった．女性のうち３名は東グリーンランドや中国西南部で，キャンプを伴う現地調査を経験している．ソウル大学のCho教授と私は，「女子学生に，キャンプ生活を伴う地質調査に従事するよう勧めるのは少し躊躇する」との意見で一致したが，この違いはお国柄？文化の差？・・・

されはさておき，私は1985年第2回会議から４年おきの会議に毎回参加し，高圧変成岩に関して多くのことを学ぶと伴に，超高圧変成岩研究の開始とその進展の中に身を置く事ができた．高圧変成岩や造山運動に興味のある学生諸君や，それが何だか知らない学生諸君にも，今後の国際エクロジャイト会議への参加を強く勧める．2015年までの開催予定は以下のとおり．

2011年：第９回会議，チェコ，（８月３日から14日）　代表者はカルル大学のS.W. Faryad教授．巡検地はボヘミア山地で，一部ドイツ・オーストリアの露頭を見学予定．なお，京大の小林記之君がチェコ内のある露頭の巡検案内を，担当する予定である．

2013年：第10会議，イタリア（8-9月），代表者はトリノ大学のR. Compagnoni教授．巡検地は西アルプス山地とコルシカ島．

2015年：第11回会議，ドミニカ共和国（3-4月），代表者はドイツのH-P. Schertl教授．Subduction channelで形成されたと考えられているjadeititeなどの観察．実施時期が従来と異なるのは，ハリケーンと高温を避けるための処置．

８月31日～９月３日まで，post conference巡検が，Qilian-Qaidam 山地の南部～中央部に分布するQaidam超高圧変成帯を観察するために実施された（第１，２図）．この超高圧変成帯は，古生代前期に，北側のQilian地塊（小大陸？）と南側のQaidam地塊（Yangtze地塊？）との大陸衝突によって形成されたとされている．その西方延長は，世界最大級の横ずれ断層の一つであるAltyn Tagh断層によって，西方に約500kmはなれたタリム盆地南西端のQiemo東方に分布するAltyn超高圧変成帯に繋がると考えられている（第１図）．こちらの巡検は西寧を出て，準乾燥地帯（図６）を150ｋｍにわたり走破した．初日の宿泊地はDulan，２・３日目はGolmud，最終日はDunhuang（敦煌）であった．３日目の露頭に近い町はDa Qaidamであるが，外国人宿泊禁止のため，長駆Golmudまで戻ることになった．これも，post conference巡検の走破距離を長くし，露頭滞在時間が制限された大きな要因の一つであった．

初日は片麻岩類に包有されたオフィオライト起源の超高圧変成岩をShaliuhe川沿いの露頭で観察した（Stop 1）．オフィオライト・ユニットは，蛇紋岩化したharzburgite, 超塩基性沈積岩とエクロジャイトで構成されている．エクロジャイトの化学組成は沈積ガブロに類似し，コース石包有物やオンファス輝石中に石英ラメラが認められ，それらが超高圧変成岩であることを示している．Harzburgiteは，古期・新期の2種類のオリビンを含み，古期オリビンは現在の深海底Harzburgiteのオリビン組成に類似し，新期オリビンは流体包有物を含むとのこと．これらのデータから，このオフィオライト・ユニットは，Qaidam地塊とQilian地塊との間に存在していた古Qilian海の構成物が両地塊の収斂に先立ち沈み込んだ物との説明を受けた．

２日目のstop 2ではエクロジャイトを観察する予定であったが，その露頭群が主要道路から遠く離れているので，急遽，post-collision花崗岩類の露頭に変更された．これら花崗岩類のジルコン年代はデボン紀中期～後期とのことだが，未変形でもあり，大半の巡検参加者の興味を引かなかった．その夜，「翌日のstop 4の観察がキャンセルされるかもしれない」との噂が流れた．欧米からの参加者やDirk達が巡検リーダーに掛け合った結果，翌日，最初にstop 4 に立ち寄り，stop 3 には夕刻に短時間だけ立ち寄った．

Stop 4（第５図）では約500×800mサイズのLulianshan（or Shenglikou）ペリドタイト岩体を観察した．岩体は蛇紋岩化を強く受けているが，garnet +/- peridotiteやgarnet pyroxeniteからなる縞状構造が顕著で，１cm径のケリファイト化したgarnet には，超高圧起源を示唆するラメラが包有されていた．

Stop 3 では高度片麻岩中の数十m径の周辺部が角閃岩化したエクロジャイト・レンズを観察した．周囲の片麻岩はgarnet-sillimanite-biotite 共生を示し，これらは，高圧変成作用後の高温変形時の産物との説明を受けた．ジルコンのSHIRIMP年代は，コアがNeoproterozoic，リムがEarly Ordovicianで，それぞれ，原岩とエクロジャイト相の変成作用の時代を示すと解釈されている．

巡検最終日に，Yuka 川の北岸でYuka eclogites（Stop 5：第１図）の露頭を見学した．この露頭の産状はStop 3 と類似していた．時間の制約で，巡検ガイドに示された一部の露頭しか見学できなかったのが残念であった．

追記：post conference 巡検に関する内容は，Dirk Spenglerの原文を平島が和訳．

第５図．標高3400mでのペリドタイト露頭の観察（stop 4）

国際交流　海外の学術団体との協力・交流活動をご紹介します

日本地質学会とモンゴル地質学会の交流協定の調印式が，10月14日モンゴル地質学会のモンゴル地質調査70周年記念学術大会の際に行われました．

モンゴル地質学会からの招待を受け，地質学会からは，宮下会長と石渡理事（国際交流担当）及び地質学会日・モンゴル小委員会の高橋裕平会員・坂巻幸雄会員にご出席頂きました．調印式のほかモンゴル訪問の様子を石渡理事よりご報告頂きましたのでお伝えします．

モンゴルへの交流協定締結出張の報告

石渡　明
（国際担当理事，東北大学東北アジア研究センター）

宮下会長と石渡及びモンゴル交流小委員会の高橋裕平さんは，12日の夕方，無事にウランバートル空港に着き，モンゴル地質学会副会長のO. Gerelさん（女性）の出迎えを受けた．

13日の朝は，まず日本大使館を訪問し，二等書記官の大川陽一さんに今回の訪問の目的と学術交流の今後の見通しなどをお話しした．その中で，モンゴルにジオパークをつくることに地質学会として協力できるかもしれない，という話に特に興味を示された．

その次にモンゴル科学技術大学のGerelさんの研究室を訪問し，岩石，鉱物，化石，地球物理などの授業を参観した．どの教室も学生であふれていて活気があった（写真１）．日本語学科も訪問し，スタッフの日本語があまりに流暢なので感激した．昼は，一般人は入場できない立派な建物の迎賓館で，S. Oyun会長（国会議員でもあり，「市民の意思党（Civil Will Party）」の党首でもある．ただし，この党は党員３万人で議員は彼女１人とのこと）主催の昼食会があった（写真２）．日本側の出席者は宮下会長，私，高橋裕平さん，坂巻幸雄さん，そして坂巻さんの奥さんで，モンゴル側はOyunさん，Gerelさん，地質・石油技術学部長のChuluunさん（男性），資源関係の会社のGotovsurenさん（男性），そして助手の女性１名だった．

昼食会の後は，Gotovsurenさんが公用車を使って宮下会長と私を市内各地に案内して下さった．ウランバートル市街の南にある展望台（弱変成古生層がよく露出している）や市内の仏教寺院兼王宮などに行った．

14日はモンゴル地質学会のモンゴル地質調査70周年記念学術大会の１日目で，モンゴルにおける地質調査の歴史の話から始まって，個別的な地質の報告が続いたが，講演はすべてモンゴル語で行われたため，私たちにはよくわからなかった．口頭発表37件，ポスター発表25件（計62件）のうち，日本人の発表が２件（高橋氏と栗原氏，いずれもポスター），日本人が共著者の発表が５件あり，日本との交流が成果を挙げていることが伺える．私が個人的に興味深かった発表は，イギリスのH. Nigelほかのモンゴル中央部のBaga Togo Uul火山（更新世）からのザクロ石レールゾライト捕獲岩の報告（ポスター）であった．また，発表はなかったが，要旨集にはGerelほかによるモンゴル初のフルグライト（閃電岩）の発見や名古屋大学の足立守氏による「名古屋大学がモンゴル科学技術大学に設けたフィールド・リサーチ・センターの役割」という文章も載っている．

14日の昼に学会会場内の小さな階段教室に設けられた式場（写真３）で日本地質学会とモンゴル地質学会の交流協定（資料１）の調印式が行われた．宮下会長とOyun会長が協定書にサインして取り交わしたが，テレビ・チームの到着が間に合わなかったので，その後別室で再度協定書にサインするところを撮影し，両会長がインタビューに答えた．宮下会長からOyun会長に交流協定締結記念のプレートが贈られ，Oyun会長から宮下会長に馬頭琴が贈呈された．

14日の午後はモンゴル科学アカデミーの地質鉱物資源研究所を訪問し，D. Tomurhuuさんからモンゴルの地質全般やオフィオライトについての話を伺った．2006年にウランバートルで開催されたIGCP480集会の要旨集・巡検案内書をいただいた．個人的には，この研究所の顧問でアカデミー会員のO. Tomurtogoo氏（オフィオライト研究者）と学会会場で知り合えたことがよかった．

14日の夕刻から市内のレストランでモンゴル地質学会有志７名（すべて女性）による日本人歓迎夕食会が行われた．日本側参加者は宮下純夫・石渡　明・高橋裕平・栗原敏之である．シャブシャブで腹ごしらえをした後，カラオケに繰り込み，深夜まで歌って踊った．S. Jargalanさんは東北大学で博士号をとったそうで，日本語も日本の歌も上手だった．

15日は終日雪で寒かった．午前中まず自然史博物館を訪問した．12日に日本から帰国したモンゴル人がモンゴル初の新型インフルエンザ感染者だったということで，13・14日は博物館が閉鎖されていたが，15日は外国人のみ？に観覧させてくれた．ドアの取っ手にアルコールを染ませたガーゼを巻くなどのインフルエンザ対策がなされていた．そのあと，岡山市の株式会社林原社長，林原　健氏の援助で設けられた古生物研究所を訪問し，N. Ichinnorovさん（女性）の案内で恐竜化石を見学した．

この日の昼に鉱物資源エネルギー省副大臣主催で外国の代表団（といってもロシアと日本のみ）の歓迎昼食会があった．この昼食会については事前に知らされておらず，宮下会長は休養のためホテルに戻っていたので，石渡が代わって祝辞を述べた．この席には巡検や集中講義のためにモンゴルを訪問中の石原舜三氏も出席した．

16日はモンゴル地質調査70周年記念式典が盛大に行われた．まず，外国の代表団（ロシアと日本）が鉱物資源エネルギー省に招かれ，大臣のD. Zorigg氏の名前で記念メダルが授与され，厚い地質家名鑑をいただいた．その後，代表団は鉱物資源庁を

左から，写真１．モンゴル科学技術大学の岩石学実習の様子．写真２．左からモンゴル地質学会副会長（国際地質科学連合IUGS副会長）のGerel氏，同会長で国会議員のOyun氏，日本地質学会会長の宮下氏．13日の昼食会で．

左から，写真３．モンゴル地質学会と日本地質学会の交流協定の調印式場．写真４．モンゴル地質調査70周年記念式典で祝辞を述べる宮下会長（演壇）．その左はモンゴル語の通訳．右から２人目はモンゴル地質学会のOyun会長．

訪問し，記念品をいただいた．その後，市内のギャラリーで開催されている「地質絵画展」を見学した．地質調査の様子や特徴的な風景，地質家の肖像などの大きな油絵が多数展示されていた．その後中央広場のチンギスハンの像の前で記念写真の撮影があったが，我々は間に合わなかった．1000人以上集まった模様である．

午後からは中央広場に面する大きな公会堂でモンゴル地質調査70周年祝賀会が1000人程度の規模で行われた．モンゴルの首相や鉱物資源エネルギー大臣の祝辞のあと，宮下会長が英語で祝辞を述べた（資料２）（写真４）．これにはモンゴル語の通訳がついた．ロシア人の挨拶はロシア語だったが，モンゴルの大部分の地質屋はロシア語がわかるので，通訳はつかなかった．そのあと，歌や踊りが夕方まで続いた．舞台の前にオーケストラが陣取り，軍服を着た唱歌隊や民族衣装のコサック風の踊り，演歌調の独唱など，圧倒的な音量で盛りだくさんだった．

夕方からは街外れのナイトクラブの体育館のような建物で祝賀晩餐会が催された．これも数100人規模の大晩餐会で，立食ではなく10人ずつが円卓を囲む形式だった．ここで鉱物資源庁の高官からモンゴルの地質写真集をいただいた．この日の大規模なイベントは10年に１度の全国的な地質屋の慰労会という感じだったが，今回が10年前よりも規模が大きいことは，地質関係の重鎮が国会議員の補欠選挙に出ることと関連するかもしれない．

そして17日朝６：55ウランバートル発の飛行機で無事に帰国した．この飛行機には朝青龍（ビジネスクラス）と幕下力士（エコノミークラス）が浴衣姿で乗っていた．我々はもちろんエコノミーである．なお，石渡は帰国後にひどい風邪をひいたが，検査の結果新型インフルエンザではなかった．

モンゴル地質学会はまだ定期刊行物を持たず，定期的な学術大会も行っていないが，モンゴル国の産業に占める地質関係者の実力は相当なもので，そのことは鉱物資源エネルギー省や鉱物資源庁が政府の役所として存在すること，地質関係の国会議員がOyunさんを含めて２人いることにも表れている．また，世界最大級の斑岩銅鉱床（Oyu Tolgoi）が発見されて，その開発が軌道に乗り出したことが大きなニュースとなっていた．

日本は1990年代から地質分野でモンゴルに対してこれまでも様々な技術協力や留学生の受け入れを行ってきており，日本で博士号をとった若い研究者は大学に採用されて高い評価を得ている．今回の訪問は，こうしたモンゴルの状況を詳しく知ることができ，また，政府・学術関係の地質関連の多くの方と交流出来たことなど，実り多いものとなった．今回の交流協定締結が今後の両国の地質関係者の更なる交流拡大につながることを期待する．

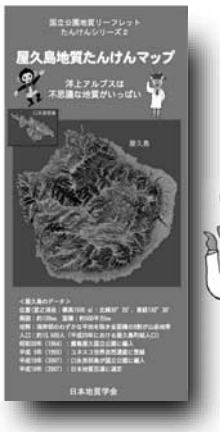
注）資料１．モンゴル地質学会と日本地質学会の交流協定．資料２．モンゴル地質調査70周年記念式典における宮下会長の祝辞　は，学会webサイトに掲載しています．
＜http://www.geosociety.jp/science/content0042.html＞

国立公園リーフレット　たんけんシリーズ第2弾

屋久島地質たんけんマップ

ー洋上アルプスは不思議な地質がいっぱいー

かわいいキッキくんとシカノスケ博士が
屋久島の地質をわかりやすく紹介してくれます。



会員頒価 300円
※20部以上ご注文の場合は割引あり

編　著：日本地質学会地学教育委員会
　　屋久島地学同好会
発　行：日本地質学会
B2版　12折　両面フルカラー印刷

シリーズ1
「箱根火山たんけんマップ」も
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．
e-mail:main@geosociety.jp　電話:03-5823-1150

TOPIC

山手線と山の手台地

川村喜一郎（財団法人深田地質研究所）

我々の研究所は，山の手台地にある．山の手台地は，武蔵野台地の東側にあたり，武蔵野台地と言っても良いらしい．

ここから，自転車で10分程度行くと，山手線田端駅がある．この田端駅から駒込駅に向かうとき，山手線は坂を登り，崖の上に出る．ご存知だろうが，この坂は，東京低地と山の手台地を境する崖にあたる．

地図で山手線の通っているところをよく見ると，東側は，台地の麓に沿って走っていることがわかる．上野駅から田端駅までの間の山手線の西側には，比高10m程度の崖が南北に，山手線に沿って伸びている．これが山の手台地と東京低地の境である．この崖は，約6000年前の縄文時代の海進によって作られた海食崖である．このような海食崖には貝塚が作られた．中学校の理科で勉強して，知っている方々も多いだろう．私の出身地の目黒にも東山貝塚公園なるものがあり，竪穴式住居や昔の人を模した人形が公園内にあったことを今でも覚えている．

東京低地は，海食崖が作られた縄文前期に作られた．当時，台地の縁まで海が侵入してきて，海成堆積物が堆積し，その後河川堆積物が覆い，それが今の東京低地である．弥生時代には，東京低地で稲作が行われていたそうだ．

一方，武蔵野台地の段丘面は，それよりももっと前，今から約10万年～３万年前の後期更新世の中頃に作られた．その当時，多摩川によって運搬，堆積した礫層や砂層が広大な，今の武蔵野面を作ったとされている．ただし，田端のあたりの山の手台地は，荒川によって作られたとされている．そして，この武蔵野面は，その後の富士山などの噴火によって，数メートルの厚さの関東ローム層によって覆われている．

写真１（上）田端車良基地．電気機関車や奥にはさまざまな新幹線も見られる．その奥には，山の手台地の崖がある．写真２（下）東京低地から山の手台地をめざして登る山手線．田端駅-駒込駅の富士見橋から撮影．次は茶色いのを撮りたいのだが．

田端には，車両基地があり，新幹線や機関車などの各種鉄道車両がある．また，山手線は，今年で100周年を迎え，復刻の茶色い車両が走っている．田端で，めずらしい鉄道を見て，遠くに見える台地の縁を眺めると，都会にある鉄道とジオロジーの融合，すなわち「ジオ鉄」を感じることができるかもしれない．

今，日本地質学会とIYPEが，惑星地球フォトコンテストを開催している．このフォトコンテストでは，先の「ジオ鉄」にまつわる写真も募集している．500万画素で撮影して，今すぐ応募しよう．全国の「田端」が君を待っている．（注意：フォトコンテストは，11/30締切です）

参考文献：東京都地学のガイド編集委員会編（貝塚監修）1997，地学のガイド－東京都の地質とそのおいたち－，コロナ社，276p.

学会オリジナルフィールドノート 新しくなりました！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　カバー：ハードカバー，ビニールコティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

支部コーナー

☆北海道支部 報告

大成功　北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質　魅力発見！」

日時：2009年10月17日（土）13：00-17：30
会場：かでる２・７（札幌市中央区北２条西７丁目）
主催：日本地質学会北海道支部，北海道地質百選検討グループ
後援：産業技術総合研究所 地質調査総合センター，北海道立地質研究所，北海道大学総合博物館，札幌市，三笠市立博物館，沼田町化石館，北海道地質調査業協会，日本応用地質学会北海道支部，地学団体研究会北海道支部

北海道地質百選シンポジウム「北海道の地質　魅力発見！」は60名以上の方々の参加で盛況のうちに終わりました．

それぞれの分野で膨大な資料を持っている12名の講演者の方には10分という短い時間の中で貴重なジオサイトの「うんちく」話をして頂きました．それぞれが中身の濃い話であり，聞く方にとっては大変興味深いもので，頭をフル回転させて次々に登場する講演者の話に聞き入りました．参加者からは，次々と豪華メンバーが発表していく速いテンポは，地質版の「レッドカーペット」を見ているようで面白かったという声も上がりました．

日本地質学会副会長の佃 栄吉氏の基調講演「日本の地質百選とジオパーク運動」と題して，世界ジオパークネットワークに日本から洞爺湖・有珠山，糸魚川，雲仙普賢岳が参加した経緯やジオパークの特徴などを分かりやすく報告して頂きました．

また，北海道各地のジオサイト紹介では，北海道には貴重な地質があることを改めて実感することが出来ました．特に講演者より世界に誇る地質・地形・化石が北海道にあることが強調されたのも心強いことでした．

同時に，開発により消えてしまう露頭をどのように保存すると言うことに関して，会場の方から「防災をキーワードにして露頭などを保存できる」という貴重な意見を頂きました．

現在，北海道地質百選のウェブで公開されているジオサイトは119箇所です．今後，誰でも知っているジオサイトをさらにたくさん公開していき，北海道地質百選を選定できる条件を整える必要があります．

シンポジウムの寄せられた多くのご意見を生かしながら活動を進めていくつもりです．全国の学会員の方のご協力を御願い致します．

（北海道地質百選検討グループ）

2010年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年度分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2010年４月～2011年３月の会費額は下記の通りです．

基本的な請求額は下記（①）の金額です．アイランドアークを印刷物で購読されている方は②の金額を加算します．2010年度からの会費請求についての詳細は，ニュース誌10月号（52ページ）をご参照下さい．

会員資格	①2010年４月～2011年３月分会費	②アイランドアーク購読料（購読者のみ請求）
正会員	12,000円	8,000円
〃　（院生割引）※1	8,000円	6,000円
〃　（学部学生割引）※2	5,000円	6,000円

※注１：定収のない大学院生（研究生）方で所定の申請をされた方のみに適用します．まだ申請されていない方は早急に手続きして下さい．なお，**2009年度分までの院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2010年度分会費にのみ適用となります．**

※注２：2010年度からは学部学生も「正会員」となり，所定の書式で申請された方のみ割引会費を適用します．
来年の３月で卒業（修了）し，社会人となる学部学生，院生の方は割引会費の申請はできません。

１．自動引き落としを登録されている方の引き落とし日は12月24日（水）です．

請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．引き落とし額は基本的には2010年度分会費およびアイランドアーク購読料（印刷物受取の場合）です．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金（繰越）がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されますので必ずご確認下さい．

２．上記以外の方（お振り込み）

12月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

３．自動引き落としをご利用下さい．

12月24日の引き落としには間に合いませんが，請求書に同封の書式にてぜひ自動引き落とし申込をお願いいたします（お申込数によっては2010年２月または３月にも引き落とし手続きを致します）．自動引き落としによる払込をより多くの会員に積極的に採用していただきたく，ご理解とご協力をお願いいたします．自動引き落としを希望する方は，「自動払込利用申込書」（巻末掲載）をお送り下さい．

（日本地質学会会計委員会）

J-DESCコアスクール・第３回微化石コース/第６回微化石サマースクール参加報告

早稲田大学大学院創造理工学研究科修士課程
小安浩理

2009年８月19日～21日の３日間，J-DESCコアスクール・第３回微化石コース/第６回微化石サマースクールが，東北大学グローバルCOEプログラム「変動地球惑星学の統合教育研究拠点」と日本地球掘削科学コンソーシアム（J-DESC）との共催で，東北大学理学部の地学棟で開催された．今回の微化石コースのテーマは『放散虫：Radiolaria』であり，３日間で古生代から現生までの放散虫を総覧するという意欲的なものである．講師陣も酒井豊三郎宇都宮大学名誉教授，八尾昭大阪市立大学名誉教授，東北大学の鈴木紀毅先生，大金薫博士と錚々たる顔ぶれであった．私も研究テーマとして放散虫を扱ってはいるものの，自分が主に扱う時代や地質体以外に関する放散虫に触れることはほとんどなかったため，いったいどんな放散虫が出てくるのか期待に胸を膨らませていた．

１日目　日本各地の大学・研究機関から集まった総勢20人ほどの参加者と講師の簡単な自己紹介の後，早速講義が始まった．先陣を務められたのは大金博士で，IODP乗船時の体験をユーモアを交えながらお話しいただいた．海洋掘削計画の報告書は読んだことがあったが，実際に乗船する研究者の日々の暮らしについて伺う機会は少なく，限られたコアサンプルをめぐる他分野の研究者とのやりとり，また食事やレクレーションなど大洋のど真ん中での楽しみなど，どのお話も興味深いものばかりであった．その後は本スクールの特徴でもある実習の時間となり，酒井先生の指導のもと新生界放散虫の観察を行った．まず，普段は滅多にお目にかかれない海洋底コアから実際に放散虫の洗い出しを行い，その放散虫試料からプレパラートを製作し観察をしたが，その美しさ（化石の保存も含めて）や種の多様性に驚いた．参加者は皆熱心で，予定の終了時刻を過ぎても時代指標となる放散虫化石が見つけるまで，観察をやめないほどだった．

その後は場所を移して懇親会が行われた．懇親会では講師の先生方や参加者同士，自分の研究のことやその日の実習のことなどの話で大いに盛り上がった．また特別ゲストとして高柳洋吉東北大学名誉教授がいらっしゃった．微化石を志す身としては雲の上の偉人である高柳先生にお会いできたことは，一生の思い出に残るものになった．

２日目　２日目は中生界放散虫がメインテーマであり，八尾先生にご指導いただいた．一日目とはうって変わり，陸上セクションの付加体チャートの放散虫試料の観察実習となった．昨日観察した新生界放散虫と中生界放散虫の違いなどを考えながら，参加者一同顕微鏡とのにらめっこに夢中であった．途中，学生による岩石試料酸処理実演の際に，反応が進みすぎるというハプニングもあったが，新生界の試料とは異なり，カチカチに固結した岩石から繊細な放散虫化石を取り出す過程には参加者一同興味津々であった．この日も実習だけではなく，講義もあり，有名な「放散虫革命」について，当時の学界や研究者達の様子について貴重なお話を伺う事が出来た．日ごろ疑問に思いながらも，なかなか聞くことができないような疑問，たとえばチャートの色と放散虫の関係や，そもそものチャート成因論などについての丁寧な解説を聞くことができたのは，とても有意義だった．

微化石サマースクール懇親会での集合写真

３日目　最終日は古生界放散虫および全体総括となり，本サマースクールの実行委員長である鈴木先生にご指導いただいた．この日もメインは放散虫観察実習であり，参加者一同時間を忘れて，古生界放散虫Albaillellariaを観察していた．日ごろの研究で古生界の試料を扱うことは珍しく，また格別保存のよい放散虫化石を観察でき，放散虫という分類群の歴史の長大さとロマンを感じることができたと思う．この観察をもって，楽しかった微化石サマースクールも終了となり，閉会式では微化石サマースクール修了証書が参加者全員に授与された．この３日間はとても濃密で，他大学の方々と一緒だったからこそ学べたことも多かったと思う．またこのサマースクールで出会えた人々とは，同じ学び舎で学んだ同窓生と思えるほど親しくなることもできた．

来年度も微化石サマースクールは，所を変え，分類群を変え，開催される．皆さんもぜひ微化石サマースクールに参加し，素晴らしい仲間と，素晴らしい微化石の世界と出会いましょう．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の４名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

b.honda@ruri.waseda.jp	**本田豊也（早稲田大）**
duketogo13@hiroshima-u.ac.jp	**東郷徹宏（広島大）**
k1799462@kadai.jp	**中谷大輔（鹿児島大）**
miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp	**宮川歩夢（京都大）**

2010年度（2010.3～2011.4月）学部学生・院生割引会費忘れずに申請して下さい！！

来年度（2010年度）からは学部学生・院生（研究者）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．次年度（2010年度）の会費についてただ今申請受付中です．毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，申請書を提出してください（郵送に限る）．

書式等詳しくは，ニュース誌10月号または学会ホームページをご覧ください．

追　悼

名誉会員　羽鳥謙三先生を偲ぶ

羽鳥謙三先生は2009年９月２日に亡くなられました．81歳でした．私は先生のご専門の第四紀地質学の研究者ではありませんが，先生が37年間勤務されていた東京都立神代高等学校で，地学の授業や地学部の活動を通じ直接先生のご指導を受け，卒業後地学の道に進んでからも，先生から温かい励ましとご支援をいただいてきた縁で，感謝と思慕の念を込めてこの追悼文を記させていただきます．

羽鳥先生は鉱山技術者の卓松さん・よねさん御夫妻の二男として1927（昭和２）年に東京都世田谷区駒沢（当時は東京府下荏原郡駒沢村字上馬引沢）で出生されました．少年の頃は戦争の時代で，空き地で塹壕を掘って戦争ごっこをしていたのが，関東ローム層との最初の出会いだったそうです．世田谷中学を経て仙台工専の採鉱科に進み，終戦後，東北大学理学部地質学科に入学されました．２年生の時から房総半島をフィールドとして卒論研究を始められ，その頃から，東京の大学の若手が組織していた地学団体研究会の活動に参加されるようになりました．大学卒業直後の1951年，神代高校（府立第15高女の後身）教諭に採用され，地学や生物を教授されました．この時から関東ローム層の研究を本格的に始められ，1958年に寿円晋吾氏と共著の「関東盆地西縁の第四紀地史」（地質雑，**64**，181-194，232-249）を公表されました．これは火山灰層の鉱物組成による綿密な対比を基礎として段丘地形とローム層の層序の関係を明らかにした画期的な論文で，その後発展した氷河性海面変動や火山灰年代学などの分野の先駆的研究となりました．

このような「関東ローム層に関する総合的研究」の業績により，1963年に関東ローム研究グループ17人ほかの一員として第３回日本地質学会賞を受賞されました．また，1965年に論文“The Kanto loam and the terrace formations”により京都大学から理学博士号を得られました．1974-75年と77～78年には本学会評議員を務められ，1959年から1994年まで日本第四紀学会（1956年創立）の評議員を務められました（その後同学会名誉会員）．そして，1998年に他の20名とともに日本地質学会名誉会員に推挙されました．

先生は多数の著作を世に送り出されました．1965年には築地書館から共編で大著「関東ローム　その起源と性状」を出版され，1971年には共立出版から柴崎達夫氏と共編で地球科学講座第11巻「第四紀」を出版されました．これらは日本の第四紀学のパイオニア的な教科書でした．2004年には地団研ブックレットシリーズ11として「武蔵野扇状地の地形発達―地形・地質と水理・遺跡環境―」，および「地学教育と科学運動」特集号として「ロームと四紀ことはじめ―研究と教育のはざまで―」を単著で出版されました．2007年には共著で杉並区立郷土博物館研究紀要別冊として「杉並の地形地質と水環境のうつりかわり」を出版され，そして今年（2009）の６月には之潮（コレジオ）社のフィールド・スタディ文庫４として単著で「地盤災害　地質学者の覚え書き」を出版されました．この本は先生ご自身が調査された地震や大雨による都市型の地盤災害の実例に基づいて，一般の人に良い住宅地の地学的な見方・選び方を説明した本です．これが先生の最後の著作となりました．

先生は，1988年に定年退職されるまで，37年間にわたって神代高校の教諭を勤められ，学校周辺の地形・地質の野外見学やスライドを用いたわかりやすい授業で多くの生徒に地学を教授されました．高いレベルのご研究を続けながらも，教育者として真剣に生徒と向き合い，生徒に学ぶことの厳しさと楽しさを教えて下さいました．私もその授業を受けた一人ですが，試験は１回もなく，成績の評価は何回かの授業のレポート（各Ｂ５用紙１枚）で行われました．時々他の教科の先生が教室の後ろで羽鳥先生の授業を聞いていたのを覚えています．また，生徒に教えるだけでなく，生徒から学ぶこともお上手でした．後年ご自宅を訪問した時に，「最近卒業した生徒から本格的なコーヒーのいれ方を教わった」と仰って，おいしいコーヒーをいれて下さったことが印象に残っています．1972年にはNHKの通信高校講座「地学」の講師としてテレビに出演され，「地学」シリーズ全体のまとめ役も務められました．一方，1980年代前半に，団体研究の成果発表に関して深刻な問題が起き，著作権を争う裁判になってからは，長年にわたり原告団の団長を務められました．

先生は神代高校在職中から群馬大学教育学部などの非常勤講師をなさっていたようですが，同校ご退職後は共愛学園女子短期大学の教授を10年間務められ，1998年には同短大をご退職されて名誉教授になられました．この間の公開講座のテキストが「地球環境と地域社会」という本として煥乎堂から1993年に出版されましたが，先生が執筆された「資源と環境」の章は，大学の地球環境学の講義として非常に優れています．

先生は野外調査を重視され，全国各地で地震や大雨による地盤災害（1971年に犠牲者15人を出した人工降雨による生田緑地事故も含めて）が起きる度に現地調査に出かけられましたが，1999年の台湾集々地震の調査が最後だったそうです．しかし，その後2001年の日本地質学会年会（金沢）の際，私たちが案内した夜久野オフィオライト・丹波帯巡検にご参加下さり，かつての教え子として大変嬉しく思いました．この年会で，先生は他の206名の会員とともに最初の50年会員として顕彰されました．この頃は前橋工科大学の講師を勤められていたようですが，最近はご自宅で執筆活動に専念されていました．

先生から直接ご指導を受けた1958～1990年卒業の神代高校地学部同窓生は230名を超えます．同地学部は，日本地学教育研究会優秀賞（1961）や第14回日本学生科学賞東京都審査奨励賞（1970）を受賞した「多摩丘陵の夜間の微気象研究」を継続的に行ったほか，奥多摩の鍾乳洞の微気象や天文・地質分野の研究も行いました．同窓生有志ら40名（米国在住者を含む）は，今年の５月２日に新宿でOB会を行い，先生は奥様とともにご出席の予定だったのですが，その前日に入院されたため，お会いできなかったのが残念でなりません．卒業後何10年が経過して，それぞれ異なる道を歩いていても，地学部の楽しさが忘れられず，世代を超えて集まり語り合えるのは，先生のご薫陶の賜物だと思います．先生はその後退院することなく，４ヶ月後に逝去されました．戒名は「碩学院謙道理源居士」とのことです．心からご冥福をお祈り申し上げます．

（石渡　明）

学　会　記　事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています．

（一社）日本地質学会2009年度 第４回執行理事会議事録　兼 （任）日本地質学会2009年度 第４回理事会議事録

2009年10月３日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年９月３日（木）
13：15～13：45
場　所：岡山市コンベンションセンター405号室
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　小嶋　齋藤　藤林　向山　矢島各理事，保柳議長，小山内副議長　橋辺（事務局）
欠席者：石渡　岩森　倉本　坂口　久田

＊成立員数（9/17）に対し，出席者12名で，執行理事会は成立．
＊前回議事録の追承認

○報告事項

・特許庁より，2009年8月27日付で特許法第30条第1項に基づく学術団体の指定を受けた．来月には「特許法第30条指定の学術団体」として特許庁のHPにも掲載される．
ただし，現状の雑誌や要旨は任意団体の出版なので任意団体として申請，今後変更があった場合には届け出が必要．

○審議事項

１．地学オリンピック日本開催について
NPO法人地学オリンピック日本委員会から，2012年に開催受入予定の国際地学オリンピック日本開催に関し，地質学会の全面的支援要請を受けたことについて，同委員会委員長でもある久田理事が欠席されたので，渡部常務理事が概要の説明をし，検討した．時間の制約もあり，久田理事から詳細な説明を受けることも含めて，４日以降に再度検討することとした．
＊その後の検討結果：
NPO地学オリンピック日本委員会から，2012年の国際地学オリンピック大会の日本開催に向けた協力要請があり，執行理事会で状況を把握しながら検討すると10月３日社団法人理事会に報告したところ．その後当委員会久田理事から詳細の説明を受け，執行理事会としては国際地学オリンピックは日本における地学の発展にとっても非常に有効な事業であり，社団法人日本地質学会の主要な公益事業として引き続き推進を図る事，2011年度学会事業計画を策定する際に本学会が主体的に日本での国際地学オリンピック大会の開催を行う事を前向きに検討する事，さらに日本開催に当たって必要な他学会・機関との調整は，連合等を通じて進める事を検討するとした．

２．「一家に１枚」ポスターの企画募集について
清川会員らの企画，提案による年代表を応募する可能性については，締め切りまでに同企画の内容の詳細を検討する時間がないこと（９月15日締切），学会および日本としての第四紀問題の方針がまだ明確にできない段階であることなどから，今回の応募は見合わせることとした．なお，同企画については，当初予定のリーフレットの企画として進めるということで提案者らに伝えることとした．

３．IYPE日本より協賛金の依頼
昨年度の協賛金（５口25万円）と同額とすることを承認した．

４．任意団体評議員会・法人理事会審議事項の確認
保柳議長，小山内副議長とともに，議事の確認，進行・時間配分等について打ち合わせた．

５．利益相反規則案について
理事会において基本的な承認を得ることとし，理事会での意見をもとに最終的には法務委員会でまとめあげることとした．

６．その他
１）地質災害への対応について
藤本地質災害委員長がまとめた現状と今後の対応のあり方をもとに，理事会で意見聴取及び意見交換をする．
２）第四紀年代区分については，学術会議とINQAの共同でシンポジウムを開催する予定であることが佃理事より報告された．

以上

（任）日本地質学会2009年度 第５回理事会議事録

2009年10月16日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年10月３日（土）
13：00～15：00
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高本副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　石渡　岩森（早退）
上砂　倉本　齋藤　坂口　藤林　向山　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：久田　矢島　（委任なし）井龍　小嶋
＊成立員数（12/17）に対し，出席者13名，委任状２名，欠席者２名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

○報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
・東京大学海洋研究所より，平成22年度の研究船淡青丸・白鳳丸の共同利用公募通知→締切9/18のためgeo-flashに掲載
・学術会議より，平成24年度に開催される国際会議の共同主催募集要項，応募期間は10/1-11/30
・富山県ひとづくり財団より，平成22年度「とやま賞」の募集要項→締切11/24，geo-flashおよびNews誌10月号に掲載予定．富山大学関係者にも連絡　11月理事会で検討
・広島大学地球システム学専攻教授（２名）公募→締切11/6，geo-flashおよびNews誌9月号に掲載済．

会員関係（担当理事-向山）
１）入会者10名（正４，正院割６）
正会員：荻野慎太郎，橋口昭彦，堀　高峰　平賀岳彦
正（院割）：中村真祐子，沼田直樹，赤井理一，田中真理子，小杉安由美，酒井北斗
２）退会者　０名
３）逝去者　２名（正２）
山嵜謙一（９月３日），青木　清（８月30日）
４）９月末日会員数
賛助30，名誉74，正4219（うち院　211），準31，合計4354（前年同期比　－114）
５）会員名簿の発行
12月予定で準備中，賛助会員を中心に掲載広告募集．
11月10日くらいまでに原稿
任意団体最後の名簿となるが，表紙の表記は一般社団法人との並列とし，規則類などは法人と任意団体の両方を掲載
６）賛助会員へ新年の挨拶ぐらいのタイミングで，法人移行の挨拶状

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・第１回学協会会長会議開催，会長出席予定　11月11日14：30-17：00　東大理学部

自然史学会連合（委員　斉木健一）

・総会が12月に開催される予定で，それまでに担当委員の継続有無について，連合の新代表候補者（現代表　西田治文氏：植物分類学会）の推薦要請があるとの報告が斉木委員からあった．委員については，これまでどおり斉木委員に継続依頼．

会計関係（担当理事-向山）
・W-B社より2010年のアイランドアークVol.19のオンライン購読の契約更新通知．購読料1441ドル（2009年は1359ドル）で，２口の利用で2882ドル．
・10月16日会計委員会開催予定
・日本複写権センターから平成19年度の使用料配分，24000円．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・写真コンテストの審査委員会の設置，審査委員長は白尾元理会員に依頼し快諾された．
委員長へ講評の原稿料＋交通費（３万円程度）の支払を検討
・コンテストのポスターを作成し，周知の強化を図る．Ａ２版カラー印刷（500枚まで）５万円前後，配布送料は300か所程度なら５万円未満，両方で10万円程度の費用見積り．
・ニコン広報誌（ジオの世界へ）への協力（会長ほか）
・過去２年のWeb検索状況について　順調にアクセスが伸びている．

ニュース誌編集小委員会
・岡山大会で委員会を開催し，記事の充実を議論（大会の記事や就職関連記事など）

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会について
参加者数は，約850名，最終報告および決算はまだ出ていない．9/6，富山大会への引き継ぎ打ち合わせおよび行事委員会を開催．市民講演会の来場者は約140名とたいへん盛況であった．地質情報展の入場者は2000名超でこれまでの最高で大成功であった．来年度の地質の日の行事について

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・韓国地質学会年会（10/29-30，済州島）への正式招待に応え会長が出席する．
・モンゴルとの交流協定案について：10月に宮下会長と石渡理事が出席して調印，地質学会から記念の楯を寄贈する
・交流先の学会員参加に向けた学会の国際化の必要性：参加申し込みや登録など情報を英語化する必要あり．アジアセッションのテーマ等については各２国間交流委員会等から国際特任理事に提案を集約することとした

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・今月の編集状況は以下の通りです（９月28日現在）
115-9月号：特集号「プレート沈み込み帯と地震（世話人：廣野哲朗ほか）」（68ページ・校了）
115-10月号：論説２　短報２　ノート１（56ページ・校正中）
2009年度投稿論文　総数57編［論説29（和文29），総説10（和文10）短報15（和文14　英文１），ノート２（和文２）報告１（和文１）］口絵８（英文４・和文４）
投稿数昨年比　－46　査読中編　62
受理済み26編（うち通常号８　特集号18）
・特集号６件投稿中．うち「陥没カルデラI：構造とマグマ」（世話人　三浦大助ほか）が間もなく刊行予定
・115巻９月号より新編集規則の適用を開始した．
・Web of Science登録申請を間もなく行う．それに伴い９月号からトムソン社に冊子送付開始．

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告（10/2現在）　順調に推移

企画出版委員会（担当理事-藤林）
・９月５日，第１回企画出版委員会を開催．今後の方針や企画等について検討．国立公園以外の企画もあるので，対象や目的に応じて３種類程度にまとめることを検討（たんけんマップ，そのほかのマップ，一般リーフレットなど）
・地学読本（委員長　原田憲一）の刊行は遅れていたが，11月には刊行見込み．定価2520円（税込），1000部印刷（予定），なお，販売促進，普及のための講演会を考慮中．
・フィールドジオロジー入門は早期の完結を目指す．
出版委員会のマンデイトを法人に継承する（そのほかの出版委員会関係も）．

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
法人移行に際して，アウトリーチも含めて事業内容の再確認を行う．

地学教育委員会（委員長-中井均）
岡山大会時にシンポジウム，夜間小集会とランチョンを開催した．

地層名委員会（委員長-天野）
・９月６日（岡山理科大学）において拡大委員会を開催．
・第四紀問題に関して早急に以下のことを行う．
１）学術会議IUGS分科会（斎藤靖二委員長）に対し，地質学会として第四紀問題に関するシンポジウムの共催ならびに講演者の推薦を申し入れる（会長名で）．
２）同分科会の検討WGに対し地層名委員会としてメンバーの推薦を行う．
３）会員等に対し，News誌，Web，geo-flash等に第四紀問題に関する概説を掲載する．

５．各委員会等
支部長連絡会議（担当理事-高木）
・９月６日，岡山理科大学において全支部の参加を得て支部長会議を開催した．
法人としての支部のあり方，とくに会計と支部規則等について説明と意見交換を行った．県や地域レベルの情報について地質学会として広報してほしいという意見が出された．
→各支部の地域内にある地学会や団体のリストアップを依頼．News誌に各地域の活動紹介のシリーズ化などを検討
・中部支部から，名古屋地学会と共催，愛知教育大学後援で，11月21日に普及行事「小中学生のための野外観察会」を開催（学会補助金承認済）するとの連絡があった．

ジオパーク支援委員会（委員長-天野）
・岡山大会のワークショップ報告
・ポスターを関係諸機関（博物館，ジオパーク推進機関および推進者など）に配布．
法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・利益相反規則（利益相反申告書），個人情報保護に関する規則，除名規則の３規則案を修正作成した．

６．IYPE日本（佃副会長）
・IYPEと学術会議で終了イベントを行う．
３月27-28日秋葉原
環境・資源・防災が３つのメインテーマで高校生程度をメインターゲットとする．地質学会として１時間程度のイベント実施の要請あり（出展代　10万円くらい）．内容については，今後検討

７．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）
・第３回台湾大会の参加国は14カ国50名＋３カ国のオブザーバー
・日本チーム（団長：上田誠也東大名誉教授）４名全員が銀メダルを獲得した．
・2010年第４回の開催国はインドネシア，国内選抜の募集開始　10/1-11/30

８．日本学術会議（佃副会長）
IYPEを総括して学術会議で報告書（６月ごろ）

○審議事項

1．任意団体の解散：評議員会および総会開催のスケジュールについて

・解散と資産の引き継ぎについては，総会決議が必要，基本的に総会は例年のスケジュールで行う．

・4月最初の週に任意団体の評議員会＋法人理事会（暫定：4月3日に科学技術館）．活動は新年度からすべて法人に移行するが，会計処理などもあるので，5月総会で解散．この場合に，任意団体の新年度会計はゼロとして解散に備えるだけの期間とする，

以上

（任）日本地質学会2009年度第1回定例評議員会議事録

2009年10月9日
日本地質学会評議員会
議長　保柳康一

日時：2009年9月3日（木）14：10―15：14
会場：岡山市コンベンションセンター（ママカリフォーラム）　405会議室

出席者：会長　宮下純夫　副会長　高木秀雄　佃　栄吉
（評議員26名）阿部国広　荒戸裕之　大友幸子　川端清司　沢田順弘　柴　正博　新妻信明　保柳康一　堀　利栄　松本俊幸　脇田浩二　安藤寿男　岡　孝雄　小山内康人　佐々木和彦　高橋正樹　滝田良基　松岡篤　村山雅史　吉川敏之（理事9名）渡部芳夫　井龍康文　上砂正一　小嶋　智　斎藤　眞　向山　栄　藤本光一郎　藤林紀枝　矢島道子　（事務局）橋辺菊恵
欠席者　評議員（委任状13名）：伊藤谷生　磯﨑行雄　磯野　清　永広昌之　北里　洋　狩野謙一　木村　学　公文富士夫　紺谷吉弘　芝川明義　中川光弘　松原典孝　山路敦　山根　誠
欠席者　評議員（委任状なし5名）：卜部厚志　三宅康幸　足立勝治　丸山茂徳　渡辺真人　理事（5名）　石渡　明　岩森　光　倉本真一　坂口有人　久田健一郎

＊出席者成立員数（20/39）に対し，出席20名，委任状14名で，評議員会は成立．
＊書記の選出　　安藤寿男，佐々木和彦の両評議員が書記に選出された．

○報告事項

1．理事会報告

(1) 運営財政部会

1）総務委員会（上砂部会長）

＊第1回～3回の理事会議事録参照．

・上砂部会長から，特許庁より特許法第30条に基づく学術団体指定を受けた旨の追加説明があった．

2）会員委員会（向山担当理事）

・前回からの入会者数　130名
正会員117名（うち院割90），準会員13名

・前回からの退会者　正会員22名

・逝去者4名　名誉会員　3名　正会員1名
名誉会員　勘米良亀齢（4/6）　加納博（6/6），松井　健（6/21），羽鳥謙三（9/2）
正会員　井田隆勝（6/6）
以上の逝去者に対し黙祷を捧げた．

・会員数

	賛助会員	名誉会員	正会員(内院生割引)	学生会員	合計
2009. 8.31	30	75	4221(211)	31	4357
2009. 3.31	30	73	4119(235)	30	4252
前回比	0	＋1	102(　)	＋1	105

3）会計委員会（向山担当理事，佐々木委員長）

・8/28　会計委員会を開催．
法人移行に際しての支部の財産，引当金の整理等について検討．

・2009年度支部補助金の配分（会員数比例）．
北海道74,000円，東北76,800円，関東174,800円，中部110,400円，近畿93,600円，四国71,200円，西日本99,200円

・IYPE日本委員会から2009年度の協賛金の要請があり2008年度と同様，25万円を支出予定．

4）その他

・JABEE委員会（天野委員長）
日本技術者教育認定機構は一般社団法人を設立（4/1）．

・技術者継続教育委員会（公文委員長）

・地質科学関連学会連合（藤本担当理事）

・自然史連合（斎木委員）

・地理関連学会連合（藤本担当理事）

・地球惑星科学連合（久田委員）

・連合法人化整備委員会（高木委員）
8月28日の会員登録者総数は4777名．うち，地質学会会員は789名（地震学会984名に次いで2番目）．

5）広報委員会（倉本情報特任担当理事，坂口担当理事・委員長）

・IYPE日本と共催で，第1回惑星地球フォトコンテスト2009を実施中（11/30締切）．

・フォトコンテストの記事を産経新聞（東海・北陸・九州版）に広告を掲載，掲載後同紙配布地域から6件の応募が確認されている．
ニュース誌編集委員会
インターネット運営委員会

(2) 学術研究部会

1）行事委員会（斎藤担当理事・委員長）
岡山大会関連

・JAMSTEC主催の一般講演会「地球深部探査船ちきゅうの活躍」の共催依頼（9/6　岡山）

・ラッシュ時混雑のため1日目（4日）のみ貸し切りバスの運行を決めた．

・発表件数561件（口頭発表287件，ポスター発表201件，シンポジウム8件（口頭67件，ポスター6件））

・9月2日に岡山大会のプレスリリースを行った．

・情報展の開会式（9/4）には宮下会長が出席の予定．
地質の日の事業

・5月10日に東京の科学技術館にて，日本地質学会主催で市民講演会を開催
「火山はすごい！－日本列島の火山をさぐる」（講師：鎌田浩毅会員）
大人からこどもまで，90名が参加．次年度も取り組む予定．

2）国際交流委員会（石渡特任担当理事）

・日韓地質学会交流協定の一貫として，10月29日～31日に済州島で開催される韓国地質学会の1st circular が送られて来た．また，同会に宮下会長が招待される．

・高木副会長より，上記内容を最新geo-flashで紹介するとの説明があった．

・宮下会長より，交流を深めるためには地質学会も英語版のCircularの検討が必要である
との助言があった．

3）専門部会連絡委員会（藤本担当理事）

4）研究委員会

・南極地質研究委員会*（廣井委員長）

・地質環境長期安定性*（吉田委員長）

(3) 編集出版部会

1）地質学雑誌編集委員会（久田担当理事・委員長，小嶋担当理事・副委員長，岩森企画担当理事）
今月の編集状況は以下の通りです（8月31日現在）
115-08月号：論説3　短報2　報告1（60ページ・校了）
115-09月号：特集号「プレート沈み込み帯と地震（世話人：廣野哲朗ほか）」（65ページ・校正中）
2009年度投稿論文　総数45編［論説24（和文24），総説3（和文3）短報15（和文14　英文1），ノート2（和文2）報告1（和文1）］口絵6（英文3・和文3）
投稿数昨年比　－56
査読中55編　受理済み29編（うち通常号11　特集号18）
特集号原稿があるので数年前よりは良いが，まだ原稿は少ないので投稿歓迎．

・インパクトファクター（IF）取得に向け，準備中．

・引用文献の記述方式（英文併記）が変更されたため，会員に周知，協力を依頼し

ている．

2）アイランドアーク編集委員会（井龍担当理事・編集長，竹内編集事務局長）

・８月31日現在のIsland Arcの編集状況
毎年増ページしている．特集号の原稿が着実に投稿されている．

・2008年のIFが前年の0.837から1.038に上昇．（２年間統計）
1.2程度（５年統計）が現況の実力，

・IARの著作権の管理方針，（CTA）の導入について
地質学雑誌などと同様に著作権をW-B社に譲渡するということになるが，著作権の譲渡を希望しない著者は，30万円で著作権を買い取ることもできる旨の説明があった．

3）企画出版委員会（藤林担当理事）

・刊行委員会委員を選出：高橋正樹（委員長），竹之内耕，高清水康博，植木岳雪．
9/5第１回委員会の開催予定

・リーフレット企画出版手続きの検討・整備：リーフレット出版に関する規則の策定，企画提案書の書式・企画手続き，査読・刊行等の手続きについて検討．

・藤林理事より，委員会体制を確立して，出版活動を進めていく旨の説明があった，

(4) 普及教育事業部会

1）地学教育委員会（中井委員長，矢島担当理事）

【連合地学教育検討委員会】（渡辺委員）

・矢島理事より，阿部委員から渡邉正人会員に委員を交代したとの説明があった．

2）生涯教育委員会（柴委員長）特になし

3）地質基準委員会　（新妻委員長）　特になし

4）地層名委員会　（天野委員長）
保柳議長（地層名委員）より９月６日に委員会が開催される予定であるとの説明があった．

(5) その他理事会関係委員会等報告

1）法務委員会（上砂担当理事・委員長）

・８月９に法務委員会を開催した．法務委員会の審議内容については会長に報告をし，会長から当事者に返答した．

2）支部長連絡会議（高木副会長・担当理事）
９月６日に開催予定　12時～13時　法人化関連のご報告，支部の規則，支部の会計，その他

3）地質災害委員会（藤本担当理事・委員長）
今後の地質災害委員会のあり方については一般法人理事会で報告と議論の予定（藤本）．

4）ジオパーク支援委員会*（委員長　天野，担当理事　高木）簡単な紹介（高木）

・岡山でワークショップを９月５日に開催（ジオパークネットワーク共催，産総研地質センター後援）９団体が参加発表する．

・ジオパークを宣伝するためのポスターを作成，関係機関へ配布予定．
【ジオパーク日本委員会（高木副会長・委員）】

・８月22日に有珠，糸魚川，雲仙の３地域が世界ジオパークネットワーク（GGN）に加盟が承認された．

・2009年度の加盟申請（10月下旬決定予定）
GGN加盟申請希望地域：山陰海岸・室戸・秩父
JGN認定希望地域：白滝黒曜石・恐竜渓谷ふくい勝山・阿蘇・天草御所浦・隠岐
なお，今年のGGN申請締め切は，12月１日

5）法人化作業委員会（渡部常務理事・委員長）

・7/11委員会を開催，選挙実施の検討をした．また，公益法人化についての現状について検討．これらについては，法人理事会でまとめて報告予定．

2．評議員会関係委員会等報告

1）各賞選考委員会（中川委員長）

2）名誉会員推薦委員会（佃副会長）
順調に推薦作業ができたことを総会で紹介．

3）男女共同参画委員会（堀委員長）
連合の男女共同参画委員会の動きも含めて，これまでの活動報告があった．

4）アーカイブス委員会　（会田委員長）

5）オンライン化委員会（斎藤担当理事・委員長）特になし

3．その他

1）IYPE日本委員会（佃副会長）
委員会は2010年３月末まで活動．今年度はとくに地質学会と共催でフォトコンテストを実施している．

2）NPO国際地学オリンピック日本委員会（久田委員長）

・９月14日台湾において国際地学オリンピックが開催される，11名（学生４名ほか）を派遣．

・久田委員長に代わり渡部常務理事より，委員会は2012年日本開催の準備開始を決定，９月の台湾で日本開催が正式に決定の予定，次回の評議員会で詳細を紹介予定とのことが，報告された．

3）地質の日委員会（藤林担当理事・委員）

・本年度の全国の事業数は前年度より増加し，着実に活動を広げている．
2009年度　60機関で92イベント（2008年度　40機関で74イベント）

・事業は全国的に広がっているがさらに実績のないところでも広げるようにしたいと佃副会長よりコメントがあった．

4）学術会議関連（木村連携会員）

4．理事会審議事項報告（おもなもの，詳細は議事録参照）

1）法人への移行についての諸問題の検討

2）第四紀境界問題，国内対応などについて，

・6/29にIUGS理事会が国際層序委員会（ICS）による第四紀の下限を2.588Maとすることを批准したことをうけて，これを会員に広報し，日本地質学会としての対応方針の検討案を作成することを地層名委員会（天野委員長）に理事会より諮問した．この件に関する担当は井龍理事とした．

・地質学雑誌やIsland Arcにおいては，当面，著者によって新旧どちらの基準に従うかを明記するようにする．

・渡部常務理事より，地質学会としての対応については地層名員会の報告を受けて，12月の評議員会で中間報告する予定であるとの説明があった．

3）リーフレット出版細則案の検討，企画出版手続きの検討

4）IARの著作権の管理方針，Copyright Transfer Agreement（CTA）の導入について

＊議事に入る前に議長より，出席者数，評議員会成立の確認があった．

○評議事項

1．任意団体の解散について

・５月の総会において今年度末をもって任意団体を解散し，一般社団法人に会員・財産のすべてを移行することが承認され，その方針で準備が進められていることが渡部常務理事から報告された．

・会計担当の向山理事より，学会財産の引渡・移行方針・引当金等の課税の可能性などについて会計委員会での検討内容の説明があった．

・事業準備引当金についての課税等の質疑があったのち，拍手で承認された．

2．その他

1）リーフレット企画出版細則案について

・この案件については法人の理事会で審議されることとなった．

以上

一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

（一社）日本地質学会2009年度 第５回執行理事会議事録

2009年10月16日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年10月３日（土）
15：15〜17：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　石渡　岩森　上砂　倉本　齋藤　坂口　藤林　向山各理事，橋辺（事務局）
欠席者：井龍　小嶋　久田　矢島
＊成立員数（9/17）に対し，出席者13名で，執行理事会は成立．
＊前回議事録の承認

○報告事項

１．選挙の告示および選挙規則等を９月号のNews誌に掲載，同様にWebサイト，geo-flashにも掲載．
２．各賞選考に関する募集要項および選考規則を９月号のNews誌に掲載，同様にWebサイト，geo-flashにも掲載．

○審議事項

１．利益相反，個人情報，除名の３規則案と倫理綱領について
以下の施行日で承認，今後12月理事会で議決後総会承認．
・一般社団法人日本地質学会利益相反防止規則（案）　2009年10月３日
・一般社団法人日本地質学会個人情報保護に関する規則（案）2009年12月１日
・一般社団法人日本地質学会除名規則（案）2009年12月1日
・一般社団法人の倫理綱領（任意団体のものを引き継ぐ）　2008年12月１日
法人設立時に施行されているものを再確認
２．法人における中期的事業計画
各部会で，中期事業計画を参考に11月執行理事会をめどに事業計画を作成
その後12月理事会までに，５年程度の中期的事業計画の全体イメージと来年度の事業計画を作成
３．地質災害への対応について
法人の定常的な活動として，種々の地質災害における地学教育や地球科学のリテラシーの有用性等の広報などを提案．継続審議とする．
４．その他
１）2012年の国際地学オリンピック大会日本開催について
地質学会の事業として積極的に取り組む

以上

（一社）日本地質学会2009年度 第１回理事会議事録

2009年10月９日
一般社団法人日本地質学会
理事会議長　保柳康一

日時：2009年９月３日（土）15：25―17：07
会場：岡山市コンベンションセンター（ママカリフォーラム）405会議室
（岡山駅西口徒歩３分，岡山市北区駅元町1-14　電話086-214-1000）
出席者：（執行理事　12名）宮下純夫会長　高木秀雄・佃　栄吉副会長　渡部芳夫　井龍康文　上砂正一　小嶋　智　斎藤　眞　向山　栄　藤本光一郎　藤林紀枝　矢島道子
（理事　22名）阿部国広　荒戸裕之　大友幸子　川端清司　沢田順弘　柴　正博　新妻信明　保柳康一　堀　利栄　松本俊幸　三宅康幸　脇田浩二安藤寿男　伊藤谷生（４時半から）　岡　孝雄　小山内康人　佐々木和彦　高橋正樹　滝田良基　松岡　篤　村山雅史　吉川敏之
（事務局）橋辺菊恵
欠席者：（執行理事　５名）石渡　明　岩森光　倉本真一　坂口有人　久田健一郎
（理事　17名）　足立勝治　磯﨑行雄　磯野清　卜部厚志　永広昌之　北里　洋　狩野謙一　木村　学　公文富士夫　紺谷吉弘　芝川明義　中川光弘　松原典孝　丸山茂徳　山路　敦　山根　誠　渡辺真人

＊定足数　28/56　　出席者　33/56（最後の議事は34/56）で成立
＊書記の選出　　安藤寿男，佐々木和彦の両評議員が書記に選出された．

○執行理事会報告

＊６月から８月の執行理事会議事録参照

○執行理事会審議事項（おもなもの）

渡部常務理事により，以下の事項および６月の理事会メール審議についての確認と説明があった．
１）執行理事の担当について
２）法人代議員，役員選挙実施に向けての準備
３）選挙細則案および選挙管理委員会規則案の策定
４）選挙管理委員候補者の選出
５）公益法人認定申請について検討
６）法人における中期的事業計画の検討
現在検討中につき12月以降に報告したい．
７）選挙管理委員会による代議員，役員選挙の告示原稿案等の検討
８）各賞選考規則案および各賞選考委員会規則案の策定（執行理事会メール審議）

○理事会メール審議事項（確認と追認）

１．選挙管理委員として次の方々の選出を承認した．
太田　亨（早稲田大）　川上俊介（アースアプレイザル）　川村喜一郎（深田研）中島礼（産総研）　松田達生（防災研究所）
＊互選により委員長は，松田達生会員に決定．
２．選挙細則および選挙管理委員会規則を承認した．
＊修正追加：細則13条（役員選挙）の削除およびそれに伴う繰り上げと新13条に３項を追加することを追承認した．

○審議事項

１．選挙の詳細についての報告
渡部常務理事より，一般社団法人における初めての選挙の実施について報告と説明があった．
１）正・副会長候補者の意向調査実施案内文
法人法により，会長（代表理事）は理事の互選により選出することになっている．地質学会としては，正・副会長に立候補の意思のある方について，会員全体の意向を尊重して選出することとして，理事会での選出に先立ち，会員の意向調査のための投票を行うこととした．
立候補の意思のある方は代議員選挙の際に，あらかじめマニフェストを提示することを義務付けることとした．
２）選挙のシステム概説，選挙スケジュール
選挙管理委員会において作成された，代議員および役員選挙告示文および実施要領についての確認，とくに今選挙からは役員の選挙は２年に一度の一斉改選であること，各地方支部区から代議員に１位当選した場合には，無投票で支部選出の理事となることなどが説明された．
選挙の告示日は９月10日とし，News誌９月号に掲載される．
・質疑応答：再任に関する規程はあるかとの質問に対し，定款，規則等で再任を妨げる条文は設けていない．立候補制ということで対応できるのではないか，との答えであった．
・以上については拍手をもって承認された．
２．公益法人化について
・藤本理事より，一般社団法人の公益認定についての最近の動向ならびに地質学会

としての公益認定申請の状況について，法人化作業委員会ならびに執行理事会での検討内容が報告された．

新法律の下での公益社団法人は，公益目的事業が50%以上を要し，遊休財産保有の制限，認定後に万一公益認定の取り消しとなった場合には，公益事業取得資産を同種の団体に贈与しなければならないなど，会計面での制約が大きい，また，これらに対する行政面からの指導監督も厳しいことから地質学会のような学術団体にとっては不利な面も多くある．一方，非営利型に徹した一般社団法人の場合（地質学会は対応），法人税や寄付の免税がないなど課税面での不利はあるが，収益事業に対する税率は同じであることや，公益法人のような制限はなく，学会として主体的運営ができる．また，地質学会が旧来の公益法人化を目指した際の目的等については，現行の一般社団法人においても十分に実現し得ることがわかっている．

地質学会としては，公益認定申請についてはよく状況を見極めながら，あまり急がずに，当面は一般社団法人としての運営をしっかり行っていくこととしたいとの説明があった．

・以上について，公益法人のリスクや一般法人との比較，他団体などの現状と対応などについて質疑応答があった後，執行理事会提案の方針を承認した．

3．各賞選考規則案と選考委員会規則案について

渡部常務理事より，任意団体の規則と基本的に大きな変更はないこと，各賞選考委員会規則に選考検討委員会と利益相反防止の項目を入れたことなどが説明された．

・質疑応答：小藤賞に関連し，短報以外にも報告，討論など，小藤賞の対象になりうるものが見受けられるのではないかとの意見があった．
小嶋副編集長より，最近は短報より少し長いだけの論説もいくつか見受けられる．賞の運営を含めて短報そのものについては編集委員会でも議論する必要があり，一部議論が始まっている，とのことであった．
・提案は拍手で承認された．短報に関する指摘は今後の検討課題とする．

4．支部の法人移行について

・向山会計担当理事より，以下のことについて説明があった．
1）支部の運営について，来年度からは一般社団法人としての活動との整合性を確保するため，事業および予算については，本部と一体化を図る．
2）支部への補助金支出ということではなく，年度ごとの事業計画に対して予算化する．
3）実際の会計処理については今後会計委員会で検討し，支部に知らせる．
4）9月6日に支部長会議が予定されているので，以上のことを説明，報告をする．
・今後の会計処理や現状の各支部の会計等について質疑応答の後，基本的な方針として承認された．

5．その他

1）利益相反防止規則（案）について
法務委員会案について渡部常務理事から説明があり，基本的に承認された．
2）リーフレット出版細則（案）について（企画出版委員会：藤林）
企画出版委員会担当の藤林理事より，目的や趣旨によって3種類（一般リーフレット，国立公園地質リーフレット，国立公園地質リーフレット・たんけんシリーズ）のリーフレット出版細則を策定したこと，リーフレットの企画毎に編集委員会を設けることなどが説明された．
いずれも拍手をもって承認された．

＊予定された審議事項のうち「地質災害への対応」については，時間切れのため次回に送ることとした．

以上

CALENDAR

2009.11～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2009年

11月　November

○第25回ゼオライト研究発表会
11月25日（水）～11月26日（木）
会場：西日本総合展示場新館展示場（北九州市小倉）
http://www.jaz-online.org/

12月　December

○IGCP507第4回シンポジウム
「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」
12月1日（火）～6日（日）
会場：熊本大学大学院自然科学研究科
http://igcp507.kopri.re.kr.

○第19回環境地質学シンポジウム
12月4日（金）～5日（土）
場所：早稲田大学西早稲田キャンパス
http://www.jspmug.org/index_j.html

○地質学史懇話会
12月23日（祝・水）13：30～
場所：北とぴあ（東京都北区）
松田義章「神保小虎の北海道調査とその成果」
前田伸人「アレクサンダー・フォン・フンボルトの探検調査と地質学への貢献：欧州や日本の科学界への影響」

2010年

3月　March

○第2回日本地学オリンピック大会
（兼　2010年第4回国際地学オリンピック・インドネシア大会日本代表選抜）
2010年3月24日～26日
会場：茨城県つくば市
募集締切：2009年11月30日（月）
http://jeso.jp/

○日本地理学会2010年春季学術大会
2010年3月27日（土）～29日（月）
会場：法政大学
http://www.ajg.or.jp/

○国際惑星地球年終了記念イベント「惑星地球フォルム2010 inアキバ―君たちと考える環境・防災・資源」
3月27日（土）～28日（日）
場所：富士ソフトアキバプラザ6階（東京都千代田区）
http://www.gsj.jp/iype/

5月　May

○日本地球惑星科学連合2010年大会
5月23日（日）～28日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

9月　September

☆日本地質学会第117年学術大会
9月18日（土）～20日（月）
会場：富山大学ほか
http://www.geosociety.jp

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．
現金書留または郵便振替　00140－8－28067
40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第40号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円
第42号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年4月刊，会員頒価3,100円，〒340円
第43号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年4月刊，会員頒価2,000円，〒340円
第44号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円
第45号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年8月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~ **（売り切れました）**
第46号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年9月刊，会員頒価1,900円，〒290円
第47号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年4月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第48号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia（IGCP350）Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年6月刊，会員頒価2,100円，〒340円
第49号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年3月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第50号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年7月刊，会員頒価2,500円，〒340円
第51号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年3月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第52号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー10pp.，1999年9月刊，会員頒価3,000円，〒340円
第53号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．
第54号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第55号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年1月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~
（売り切れました）
第56号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年3月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第57号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年9月刊，会員頒価2,800円，〒340円．
第58号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．
第59号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年5月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年4月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年2月発行　会員価格200円（非会員300円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年5月発行　会員価格300円（非会員400円）
国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ
1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年5月発行　会員価格300円**（20部以上購入の場合割引あり）**
2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年3月発行　会員価格300円
（20部以上購入の場合割引あり）

国立公園地質リーフレットシリーズ
1．箱根火山　2007年7月発行　会員価格1,000円**（20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか
第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　会員頒価2,800円，〒500円
第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円
第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円
第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円
※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価1冊500円．

（金融機関用）　　平成　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号	通帳番号（右詰めでご記入ください。）
166	30	1　　0 の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

捨印（ゆうちょ銀行を除く）

ご注意！ 金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 18476000	顧客コード 00000	

―預金口座振替規定―　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日時印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

80円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内

日本地質学会

御中

オリ線

住所

氏名

オリ線

裏面のりしろ③

キリトリ線

裏面のりしろ②

国立公園地質リーフレット1. 箱根火山　好評発売中!!

Ｂ２版．5万分の１地質図と解説からなります．箱根火山の研究史から最新の研究成果までフルカラーで詳しく紹介されています．

紙は，水に強く、鉛筆等での書き込みも容易なレインガード紙を使用していますので野外での調査・巡検に最適です．広くご活用下さい！

学会では今後各地の国立公園をターゲットに,地質リーフレットを製作していく予定です．子供版「箱根火山たんけんマップ」ともども，皆様のご意見・ご要望をお待ちしております．

購入希望の場合は，氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上，メールもしくはFAXで学会事務局までお申し込み下さい．会社名等での請求書が必要な方はその旨明記して下さい．
e-mail：main@geosociety.jp　　FAX 03-5823-1156

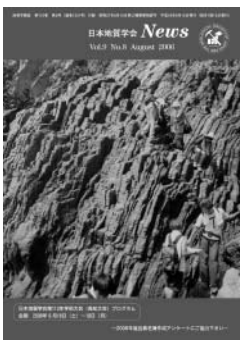
※学会で販売するほか,神奈川県立生命の星地球博物館や箱根周辺の土産物ショップなどでも販売しています．

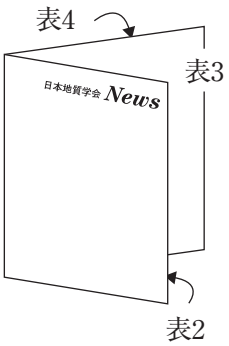
会員頒価　1,000円/部
（20部以上の場合は割引あり）

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．





＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表４	60,000	＋10,000	＋10,000
表２	50,000	＋10,000	－
表３	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

Stallard Scientific Editing

your trusted partner in English-language excellence

science • technology • medicine • engineering • arts　　research papers • theses • books • abstracts

スタラード・サイエンティフィック英文校正のDr.アーロン・スタラードにお任せください．
貴方の地球科学の学術論文の英語をネイティブレベルの完璧な英語に英文校正します．

Dr.アーロン・スタラードの略歴：

- 1999年，ジェームスクック大学（オーストラリア）において博士号（地球科学）取得．
- 2000〜2001年，日本学術振興会外国人特別研究員として静岡大学理学部に滞在．
- 2002〜2005年，カンタベリー大学（ニュージーランド）FRST特別研究員．
- 2008年，科学分野にて315編以上の英文校正実績．
- 過去8年間に国際誌10編の原著論文．
- 固体地球科学，地震学，物理探査（リモートセンシング），古生物学，生態学，気象学，森林学，気候変動学，海洋学，環境モデリング等，地球科学と環境科学の幅広い分野での英文校正の実績．

スタラード・サイエンティフィック英文校正について．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は，世界各国の英語を外国語とする研究者の方々のためのオンライン英文校正サービス会社です．ニュージーランドのネルソンから，ニュージーランド在住のネイティブスピーカーによる英文校正サービスをご提供いたします．

スタラード・サイエンティフィック英文校正は2006年にDr. アーロン・スタラードとアナベル・ボーイズ夫妻により設立されました．夫妻は，地球科学（Earth Science）と医療撮影（Medical Imaging）の専門分野でそれぞれ活躍後，日本やヨーロッパの英文校正会社にてフリーランスの英文校正者としての経験を積んで独立し，スタラード・サイエンティフィック英文校正を設立いたしました．

スタラード・サイエンティフィック英文校正の利点をご検討下さい．

- **迅速な対応：**スタンダードサービス4〜6日（休日を除く）；エクスプレスサービス1〜2日（休日を除く）．
- **お手ごろな価格設定：**250単語あたり，¥1600；学生10%割引．
- **英文校正者のエキスパート：**専門分野に精通した校正経験豊富なネイティブ英文校正者．
- **満足感、高品質を保証：**お客様が私どものサービスに100%御満足いただけるまで料金のお支払いは不要です．私どもの無料*Ask-the-Editor Service* 及び*Draft-to-Journal Guarantee*保証をご覧下さい．
- **お客様の自国の通貨でお支払い：**日本円建てによるお見積り，お支払いをお取り扱いしております．
- **お支払い方法：**日本国内の銀行口座への振込による方法とオンライン上でクレジットカードによるお支払いの方法が選択できます．

www.stallardediting.com

Stallard Scientific Editing, 53 Kotare St, Fendalton, Christchurch 8041, New Zealand

Tel: +64 3 3433327　　Internet: www.stallardediting.com
Fax: +64 3 3433328　　Email: info@stallardediting.com